

第 2 部

選定種の解説



1. 植物群落

本県は、気候帯区分では暖温帯に位置するが、大分、佐賀県境は標高1000m前後の稜線が走り、この付近は植生帯の垂直分布で夏緑樹林帯となっている。植物の分布を指標する暖かさの指数、寒さの指数で等温線を引くと、夏緑樹林帯の指標種であるブナの下限は、大分県境山地で標高800m付近、佐賀県境や県中央部山地で750m付近となる。また、照葉樹林帯上部の指標種であるアカガシの上限は、大分県境山地で標高1000m付近、佐賀県境山地で950m付近となる。脊振山地や三郡山地ではブナとアカガシが混生しており、この等温線は植生の自然分布とかなりの一致を見ている。

本県の森林面積は223,026ha(1998年)で、県土面積の45%である。また、県土を植生区分で示すと、第4回自然環境保全基礎調査(1992年)時点で、ブナ群落、ミズナラ群落、シオジ群落など夏緑樹林帯自然植生0.1%、アカシデーイヌシデ群落など夏緑樹林帯代償植生0.5%、アカガシ群落、モミ群落、スダジイ群落、コジイ群落、クスノキ群落、タブノキ群落など照葉樹林帯自然植生0.8%、シイ・カシ萌芽林、アカマツ群落、コナラークヌギ群落など代償植生14.0%、河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生など0.4%、植林地・耕作地植生63.5%、その他20.7%となっている。また、植生自然度ランク(1～10)で、非常に良好な自然を示す自然度9の面積は1.3%であり、全国平均19.1%に比べてはるかに少なく、都道府県別順位で41位にランクされている。

カテゴリーと選定基準

群落レッドデータについては、環境庁自然保護局長が委嘱した「我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会」作成の『植物群落レッドデータ・ブック』(NACS-J・WWF-Japan:1996年発行)のほか、兵庫県をはじめ8県で作成または検討されているものがあるが、各県レベルのものでは選定基準およびカテゴリーは、当該県の状況により独自のものとなっている。本県植物群落分科会では、上記レッドデータ・ブックのカテゴリーの考え方を基準とした。

選定群落については、環境庁特定植物群落を一次候補として現地調査を行い、また、その後の調査によって得られた資料から候補群落を追加して、候補群落票を作成し検討を加えた。群落票記載内容は次のような項目である。

群落名、所在地、地図上の位置、植生タイプ、群落選定基準(環境庁基準に準じる)、対象群落の概要、周辺植生の状況、各種保護指定の有無、群落調査の履歴、土地所有者、人為その他の群落へのインパクト

これらの項目から、レッドリストとしての評価(群落状態および保護の緊急性)に関し、総合評価を行った。カテゴリーランク記号は、本県の各分類群カテゴリーの統一記号との整合性を考慮して次のとおりとした。この結果、国レベルの上記委員会使用記号順と逆になったことを付記する。

福岡県カテゴリー：I～IV 植物群落研究委員会(環境庁委嘱)カテゴリー：4～1

I：4	緊急に対策必要	緊急に対策を講じなければ群落が壊滅する
II：3	対策必要	対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する
III：2	破壊の危惧	現在は保護対策が功を奏しているが、将来は破壊の危惧が大きい
IV：1	要注意	当面、新たな対策は必要ない(監視必要)

群落評価項目およびランク

	群落評価	ランク	評価段階
1	植生自然度	A B C D E	A：優れる
2	群落内生育種の貴重性	A B C D E	B：やや優れる
3	ハビタットとしての貴重性	A B C D E	C：普通
4	生育種の保存状況	A B C D E	D：やや劣る
5	郷土の景観としての貴重性	A B C D E	E：劣る
6	群落の保存状態	A B C D E	
7	群落分布上の貴重性	A B C D E	
8	群落状態総合ランク	A B C D E	

以上の内容に関し候補各群落について検討した結果、複合群落15群落、単一群落55群落を本県におけるレッドリスト掲載群落として選定した。本文には福岡県カテゴリーおよび群落状態総合ランク（A～E）を記載した。なお、検討の過程で環境庁特定植物群落として選定されている群落の中で、現在は破壊、または消滅したものが数群落あることが判明した。カテゴリー別のレッドリスト掲載群落数は次のとおりである。

カテゴリー	I類	I～II類	II類	III類	IV類	合計
単一群落	4	1	17	17	16	55
複合群落	1	-	3	10	1	15

本文の記載は単一群落、複合群落の順にそれぞれカテゴリー順に配列し、複合群落の記載は、原則として構成群落名とそれぞれの立地条件の説明のみとした。

本文記載項目の凡例は次のとおりである。

- ・福岡県カテゴリーおよび群落状態総合ランク：I～IVおよびA～E
- ・RDB群落委員会：環境庁自然保護局長委嘱の「我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会」
- ・群落名に付した記号：◇・複合群落 ◆・単一群落
- ・複合群落中の☆記号：環境庁特定植物群落に指定されている群落
- ・指定の欄のアルファベット（A～H）記号：下記の環境庁特定植物群落選定基準に準拠した選定根拠
 - A：原生林もしくはそれに近い自然林。
 - B：国内の若干地域に分布するが、極めてまれな植物群落または個体群。
 - C：比較的普通に見られるものであっても、南限・北限・隔離分布等分布限界となる植物群落または個体群。
 - D：砂丘・断崖地・塩沼地・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地などの特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの。
 - E：郷土の景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの。
 - F：過去に人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期間伐採等の手が入っていないもの。
 - G：乱獲その他人為的な影響によって、当該県内で極端に少なくなる恐れのある植物群落または個体群。
 - H：その他、学術上重要な植物群落。

※ 各群落名の後の（ ）内に記されたA～Hの記号は、現時点での群落環境を基に評価されたものであり、環境庁特定植物群落の評価とは一致していないものもある。

重要なハビタット

本県の夏緑樹林は県土面積の0.1%にすぎないことから、そこに展開するブナ群落などの自然植生は希少かつ貴重な存在である。また、照葉樹林帯の自然植生も生育面積はわずかであり、これらの中には群落としての存在環境が厳しく、将来は絶滅が危惧されるものも含まれている。

山麓、丘陵地の雑木林は、1970年代からの急激な都市化とともに急速に消滅している。しかし、近年これらの林分は生物多様性保全の観点から、多くの種のハビタットとしてその重要性が指摘されており、雑木林の保存は緊急な課題となっている。また、かつては山すそに点在し、水生植物群落のハビタットとなっていた多くのため池や、丘陵地の低地に点在した湿地群も、農業形態の変化や都市化のためこの数十年間にあらかた消滅してしまった。わずかに残されたこのような水辺はハビタットとして貴重な存在である。

人里の植生としては、デンジソウ、ミズオオバコなどの希少種を含む中山間地水田雑草群落、山間部の畦や水田に隣接する山地斜面、ため池堤防斜面など、定期的な草刈りや野焼きの管理を受け、キキョウ、オミナエシ、スズサイコなどの希少種を含むススキ・ネザサ群落などが保護の緊急性が高い群落としてあげられる。

本県の特筆すべき森林植生として、平尾台に特異的に生育するイワシデ群落やヤブニッケイ群落、立花山のクスノキ群落、古処山のツゲ群落、植林後300～600年以上を経過して大径木となっている小石原行者杉や若杉山スギ群落、久留米市のキンメイモウソウチク群落、城山のムクロジ群落、菅岳のクロモジ群落などがある。

なお、本県の群落分布の概要と生態系から見た各群落の位置づけについては、植物群落とハビタットの章で詳説されている。

(冷川昌彦)

カテゴリー：I，群落評価：C(福岡県)

アカマツ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：1. 上野峡のゲンカイツツジ群落(アカマツ群落) 環境庁特定植物群落(B・D・H)，北九州国定公園第2種特別地域；2. 油山のアカマツ林 環境庁特定植物群落(E)，福岡市油山自然観察の森

群落の特徴：アカマツの優占する二次林は、丘陵地、尾根部、風衝地、基岩が露出した花崗岩・安山岩地帯などで、自然災害や人為的に破壊された土層の薄い立地に侵入してできたもので、一部では植栽されたものもある。かつては広く分布し、上木を炭鉦の坑木や建物の梁(はり)、薪などとして切り出したり、低木の伐採、落葉のかき出しなど、人手を加えることで維持されてきた。しかし、1960年代のエネルギー革命以降、用材や薪としての利用は途絶え、落葉かきなども行われなくなり、遷移が進行した。同時に、マツノザイセンチュウによる枯損がまん延し、県内の優れたアカマツ群落はほとんど消滅し、人工林への転換や広葉樹林となる林分が続出した。わずかに残された群落も1991年の台風により倒伏・折損し、現在本県では絶滅寸前となっている。

群落構成：上野峡では上層を20m前後のアカマツが占めるが、密度は低い。特に30年生以上になるとマツクイムシによる枯損個体が多く、大木は少なくなっている。亜高木層以下にスダジイ、アラカシ、コナラ、ヤマハゼ、ソヨゴ、ネジキ、ヤマツツジなどがあり、下層はウラジロやコシダに覆われ、部分的にはゲンカイツツジ群落が点在する。油山でもアカ

マツの密度は低く、下層はコナラ、アラカシ、ヤブニッケイ、コシアブラ、リョウブ、ネジキなどの樹木が多く、林床はウラジロやコシダなどに覆われる。**保存状況：**本県のアカマツ群落はほとんど壊滅状態であり、20年前まで見られた英彦山、浮羽町分田、黒木町笠原などの、胸高直径100cm近くもあった群落はほぼ消滅した。上野峡では個体数は少ないが、かなり広い範囲が相観的にはアカマツ林の様相を呈している。しかし古木になって、スダジイやアラカシ、コナラ、ソヨゴなど常緑樹との競争に負けたり、マツクイムシによる枯損で広葉樹林化した林分も見られる。また近くを林道が通ったことで、林分の分断による衰退なども心配される。

油山では自然観察の森として管理が行き届くため、マツノザイセンチュウ防除薬剤を樹幹注入して、保護に努めている。古くより代表的な里山景観の一つであったアカマツ林は、何らかの対策を講じなければ、今後も消滅の一途をたどると思われる。

所在地：1. 赤池町上野；2. 福岡市南区桧原，城南区東油山

このほか、丘陵地のため池周辺などに小規模な群落も点在する。(猪上)

カテゴリー：I，群落評価：B(福岡県)

ゲンカイイワレンゲ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：4

指定：軽子島のゲンカイイワレンゲ群落 環境庁特定植物群落(B・H)

群落の特徴：ゲンカイイワレンゲは北九州市が基準産地であり、ベンケイソウ科の植物である。アオノイワレンゲと非常に類似しているが葯が赤いのが特徴である。県内ではこの門司区軽子島と、1kmほど北にある柄杓田にしか分布していない。

生育地は秩父累積層群からなる海崖のテラス部分であり、浅く堆積した岩屑や土壌上に群生している海岸風衝群落である。群生地上部の崖上にはネズミモチ、マサキ、トベラ、ススキ、ヒトツバなどの多い海岸低木林があり、そこからの崩落腐葉土がこの岩上植物の栄養源となっている。分布区域は東南側に面した20㎡程度のごく狭い範囲で、日当たりもよく冬季の季節風から遮られた地形で生育環境はよ

い。なお、北西面側など日当たりの悪い場所や、一般植物が生育できるような環境条件のよい箇所には見あたらない。

群落構成：周囲にはハマナデシコ、ハマナタマメ、シマカンギク、ホソバワダン、トダシバなど乾燥地に強い植物が見られる。

保存状況：最近この植物が紹介され、地元では一部で保護の目的で栽培が始められているが、心ない人が盗掘し、生育地が踏み荒らされており、絶滅の危機に瀕している。周辺が臨海工業地として埋め立てられ陸続きとなり、人の出入りが簡単にできるようになったことが原因と考えられる。

所在地：北九州市門司区猿喰 (神崎)

カテゴリー：I，群落評価：B(福岡県)

塩沼地植物群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2～3

指定：1. 瑞梅寺川河口の塩沼地植物群落 環境庁特定植物群落(D)；2. 和白浜の海浜・塩沼地植物群落 環境庁特定植物群落(C・D・G・H)

群落の特徴：本群落は河口域などで満潮時に植物体が冠水し、干潮時には干出する塩沼地に見られる。群落を構成している植物は、「塩」による生理的乾燥を防ぐ特殊な機構を持っている。県内には佐賀県、長崎県に見られるような大規模な群落はないが、有明海、玄界灘、響灘、周防灘に流入する河川河口部、入江、塩田跡地など県内各所に分布している。

群落構成：本群落は1～数種で構成され、底質、微地形、塩分濃度に対応し分布する。県内ではハママツナ群落、ヒロハママツナ群落、シバナ群落、フクド群落、ナガミノオニシバ群落、ハマサジ群落、シオクグ群落が見られる。

保存状況：近年、本群落が発達する塩沼地は、埋立、河川改修、道路開発によって急速に減少している。1970年代まで周防灘沿岸域に見られたシチメンソウ群落は消失し、現存するほかの塩沼地植物群落も危

機的状況にある。博多湾東部和白浜の塩沼地植物群落では、1984年に行われた調査時に比べ、ハマサジ群落が消失し、シバナ群落の面積が減少している。また、河口左岸側にあった塩沼地植物の帯状配列も現在では消失し、ヨシ群落周辺にわずかに生育するのみで、どの群落も面積が1～5㎡以下である。また近年、干潟に大型重機を入れて海岸に漂着したアオサを回収する作業が行われており、その際、本群落の一部が攪乱されるなど影響が懸念される。

なお、本群落の構成種であるハマサジ、シバナ、ウラギクは環境庁絶滅危惧Ⅱ類にあげられるなど、種としての存続も危ぶまれている。

所在地：1. 福岡市東区唐原；2. 福岡市西区今津

このほかにも、北九州市門司区白野江、同小倉南区曾根、行橋市金屋などにまとまった群落が見られる。(笹富)

カテゴリー：I，群落評価：B(福岡県)

ツクシシャクナゲ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：1. 犬ヶ岳の自然林(ツクシシャクナゲ群落) 環境庁特定植物群落(G)，耶馬日田英彦山国定公園第2種特別地域，国天然記念物(犬ヶ岳ツクシシャクナゲ自生地)，地域象徴植物(豊前市)；2. 英彦山の自然林(ツクシシャクナゲ群落) 環境庁特定植物群落(G)，耶馬日田彦山国定公園特別保護地区；3. 三郡・宝満山のツクシシャクナゲ群落(G) 太宰府県立自然公園第1種特別地域，地域象徴植物(宇美町)；4. 脊振山のツクシシャクナゲ群落(G) 脊振雷山県立自然公園第2種特別地域；5. 釈迦・御前岳のツクシシャクナゲ個体群(G) 矢部川県立自然公園第2種特別地域

群落の特徴：代表的な群落は、国指定天然記念物となっている犬ヶ岳のツクシシャクナゲである。筵吊岩(標高1019m)から山頂(1131m)までのほぼ1kmにわたる群落があり、開花時の5月中旬には登山客でにぎわう。途中の釈迦岳(1040m)周辺では密生し、通称シャクナゲ銀座とも呼ばれるほどである。

県南の釈迦・御前岳には以前は県境の稜線に大群落があったが、現在は岩角地に残っているにすぎない。脊振山地では小面積の群落は、金山から脊振山への稜線にある獅師岩山(893m)の一角に分布している。宝満山から三郡山の稜線付近の林内にもわずかに散生する。英彦山では南岳西方、薬師岳から猫ノ丸尾にかけての県境の稜線沿いに分布している。また、中岳の山頂近くや北岳望雲台周辺にも多い。

群落構成：通常ブナ林やアカガシ林内に見られるが、場所により高木層を欠く場合もある。樹高は8m未満で、1株が直径5mにも広がるものもある。こうした株が稜線に沿って群落を作る。低木層・草本層にハイノキ、オオカメノキ、ツルシキミなどを伴うが、通常ササ類を欠く。なお、山腹の派生尾根など、表土の浅い場所にも単木として点在する。

保存状況：犬ヶ岳では1991年の台風で高木層のブナが倒れ、直接日光にさらされるようになった群生地もある。枝を折ったり、林内に立ち入り勝手に道をつくるなど表土を荒らす心ない登山者も多い。

所在地：1. 豊前市鳥井畑ほか；2. 添田町英彦山；3. 太宰府市北谷，宇美町宇美；4. 福岡市早良区椎原；5. 矢部村北矢部 (神崎)

カテゴリー：Ⅰ～Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

湿生植物群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：4

指定：1. 小石原の湿原 環境庁特定植物群落(D・G・H)；2. 黒木町南部の湿原 環境庁特定植物群落(B・D・G・H)，矢部川県立自然公園普通地域；3. 池の山のオグラコウホネ群落 環境庁特定植物群落(B・D・G)，矢部川県立自然公園第3種特別地域

群落の特徴：湿生植物は河川の侵食から取り残された準平原地形や、台地状地形または低山丘陵地などで、傾斜の緩い小流辺の過湿地や池尻，浅いため池，廃水田など地下水位の高い箇所あるいは常に湛水状態にある箇所に見られる。

本県でもかつてはこのような湿地が各地に存在したが，現在ではやや標高の高い地域に小規模のものが点在して見られるにすぎない。

群落構成：傾斜の緩い小流辺上流の貧栄養の湿地では，2～5mくらいの低木層にノリウツギ，ヤブイバラ，イヌツゲ，イソノキ，コムラサキなどが散生し，草本層にはヤマドリゼンマイ，ハリガネワラビ，ミズオトギリ，リュウキンカ，エゾミソハギ，サワギキョウ，マアザミ，コバノギボウシ，シロイヌノヒゲ，オオハリイ，コアゼガヤツリ，アブラガヤ，マツバスゲ，タチスゲ，ミヤマシラスゲ，ゴウソなどが生育し，最下層にオオミズゴケが群生する。

やや富栄養化した湿地では，低木層にオオタチヤナギ，ノリウツギ，イボタノキ，ウメモドキなどが散生し，草本層にはミヤマシラスゲ，タニヘゴ，ヒメシダ，ミソハギ，ヌマトラノオ，マアザミ，ホソバヨツバムグラ，ヒメガマ，ヘラオモダカ，ヤマトミクリ，ノハナショウブ，コアゼガヤツリなどに覆われ，ミズゴケ類は減少する。

更に富栄養化した湿地では，フトイの純群落になっている箇所もあるが，次第にミゾソバ，ヤブイバラ，ヨシ，トダシバ，ススキ，ネザサなどに覆われて衰退していく。

流域の自然環境が保たれ，しかも水深の浅い池沼ではヒツジグサやジュンサイ，ホソバミズヒキモなどが水面を覆い，水中にイヌタヌキモが見られる。星野村池の山麻生池では，希少植物のオグラコウホネが群生している。

池沼の上流部ではネコヤナギやオオタチヤナギなどが繁茂し，下層にミヤマシラスゲやミゾソバなどの生える箇所もある。

農業用水として利用され，夏から秋にかけて水位

が低下する池沼では，池尻にツクシクロイヌノヒゲ，ニッポンイヌノヒゲ，ヒメホタルイ，ヒナザサ，サワトウガラシ，ミズユキノシタなど草丈10cm前後の矮生植物群落が短期間に発達する。なかでもツクシクロイヌノヒゲは本県を基準産地とする植物で，西日本の各地で見発しているが，いずれの箇所でも生育が危ぶまれており，ヤマトミクリとともに環境庁絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

保存状況：本県の湿地は宅地開発，道路や工場の建設，ゴルフ場建設などによる埋立や水質汚濁，ミズゴケ類採取のための立ち入り，遷移の進行などにより春日原，小郡市三沢，久留米市高良台をはじめほとんどの箇所で消滅した。

小石原では乾性化の進行と草刈りが行われなくなったことで低木類やススキ，ネザサが繁茂し，カリマタガヤ，イトイヌノヒゲ，コイヌノハナヒゲ，モウセンゴケ，ムラサキミミカキグサなど矮生の湿地植物が消滅した。絶滅しないまでも一般の草原性植物の侵入が見られ荒廃が著しい。

黒木町南部では，大規模年金保養基地の建設工事に伴う埋立や流量の減少，土砂や汚水の流入などにより，トキソウなどの見られた主要部分は消滅した。現在もお土砂や汚水の流入などによる衰退が続いている。大小の池沼で農業用水としての役割を終えたものは，秋季の水落としが行われなくなり，ツクシクロイヌノヒゲなどの矮生植物群落は消滅しかけている。

池の山麻生池は，夏季には多くのキャンプ客が訪れ，ボートの侵入による自生地の破壊やキャンプ場からの汚水の流入が見られる。また池にアヒルやカモが放たれ，それらの餌や糞による池水の汚濁も見られる。いまのところ一冬越せば復元しているが，長期的に見れば衰退の要因でもあり要注意である。

所在地：1. 小石原村小石原；2. 黒木町木屋；3. 星野村池の山

その他，豊前地方には小規模の湿地が点在する。

(猪上)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：D(福岡県)

クリーク水生植物群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：柳川のクリーク水生植物群落 環境庁特定植物群落(D)

群落の特徴：各地にあるクリークの中から、景観上水生植物群落が一望できる柳川市のものを選んだ。本地域は矢部川の分流、沖端川、塩塚川から水を引いて水路を張り巡らしている。まとまった水生植物群落が見られる所は農地中のクリークである。抽水植物としてヨシ、マコモ群落、キシユウスズメノヒエ群落、浮葉植物としてホテイアオイ群落、アオウキクサ群落、沈水植物としてオオカナダモ群落が見られる。各群落ともほかの植物をあまり伴わない。クリーク一面に広がるホテイアオイ群落は、ヤナギとともに水郷柳川の美しい景観を作り上げている。

群落構成：水の汚濁が進み、透明度が低いので、沈水植物としてはオオカナダモの群落が見られる程度で、かつて見られたマツモ、クロモ、ホザキノフサモなどは見られない。水平的には水際にヨシ、マコモ、ヌカキビが生育し、水面にホテイアオイが占め

アオウキクサを伴う。ホテイアオイのない所ではアオウキクサが水面を覆う所、またキシユウスズメノヒエが水をはうように水面を覆っている所も多い。水平、垂直両面について種数が少なく本地域ではヒシ、トチカガミなども見られない。

保存状況：クリークは本地域のみならず三橋町、大和町、大木町など他地域にも多い。それらの中にはトチカガミ群落、ヒシ群落などの見られる所もある。しかし、いずれのクリークも宅地造成による農地の減少と、生活排水による水の汚濁、水抜きによる水路の管理、コンクリート護岸による農地の整備、観光開発などによって、急激に動植物の生息しにくい環境になりつつある。また、ホテイアオイが繁殖しすぎ、ほかの群落を圧迫している場所もある。

所在地：柳川市矢留本町，下宮永町ほか

(宝理)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：C(福岡県)

河辺草本群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2～3

指定：遠賀川の河辺草本群落 環境庁特定植物群落(D)

群落の特徴：河川周辺は1～数年おきに見られる洪水によって、植生や立地の破壊と再生が繰り返されるといふ特徴がある。その植生は河川での位置、溪流勾配、水量、洪水の頻度などによって異なる。上流部では川岸は侵食で崩落した岩石や土砂よりなり、一般に傾斜が急で貧栄養の土壌である。母岩のすき間やわずかな土壌の上にネコヤナギ、ヒメレンゲ、セキショウ、ナルコスゲ、アキカサスゲなどの植生が見られる。

中流部は比較的富栄養の立地で、傾斜もやや緩くなり、しかも流量の変動が大きく、洪水の頻度も高い。そこにはツルヨシ、クサヨシ、セリ、オランダガラシ、シロバナサクラタデなど洪水に抵抗あるいは再生可能な草本植物群落が発達する。

下流部は勾配が緩く、富栄養の立地であり、たびたびの増水や冠水にも耐えうるオオタチヤナギ、オギ、ヨシ、マコモ、ヒメガマなどの耐水性の樹木や大型の抽水植物群落が発達する。その下部にはカナムグラ、ミゾソバ、カサスゲなども見られる。

群落構成：ほとんどの河川では河川改修や川砂採取

が行われ、前述のような自然の河辺草本群落が広い範囲で見られる場所は非常に少なくなっている。遠賀川下流の中間市付近の河川敷では、長さ1.5kmにわたって、草丈が3mにもなるオギを主体にした草本植物群落が見られる。構成種はオギのほかにはヨシ、ウキヤガラ、セイタカアワダチソウ、スギナ、カナムグラ、ヤブマメなどが見られるが、その割合は小さい。

保存状況：河川敷内であり国土交通省所管の国有地であるが、小規模の畑や駐車場などに利用されている箇所もある。また一部ではスタレヨシ用に刈り取られている。堤防に近いやや乾性化した箇所では、セイタカアワダチソウの侵入で群落の衰退が見られる。

今のところ、この場所では河川改修工事は行われていない。

所在地：中間市下大隈

その他、今川、筑後川、矢部川などの河川敷には小規模ながらオオタチヤナギ、クサヨシ、ヨシ、オギなどの群落が点在する箇所がある。

(猪上)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

ため池水生植物群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：なし

指定：なし 群落選定基準(E・G)

群落の特徴：ため池は県内各地に広く分布しており，かんがい用などに使用されてきた。最近では，水田の宅地化などにより管理が放棄されたり，埋め立てられたものも見られるが，沈水・浮葉植物群落が発達しているため池が，丘陵～低山地を中心に点在している。この群落は，ヒルムシロ属，タヌキモ属などの沈水植物や，ヒツジグサ，ガガブタ，ヒシなどの浮葉植物で構成されている。このような水生植物群落は，栄養塩類濃度などの水質状況を反映して，場所により優占種や種組成が異なることも多いので，ここでは「ため池水生植物群落」と総称した。

群落構成：県内のため池水生植物群落は，体系的に整理されていないので，いくつかを例にとる。大平村には，浮葉植物のジュンサイの密度が高く，ガガブタも出現するため池がある。沈水植物ではイヌタヌキモが多く，ヒルムシロ，ホソバミズヒキモ，ミズズギナなども混生する。北九州市の丘陵地には，ヒツジグサが比較的多く，ヒルムシロ，ホソバミズヒキモ，イヌタヌキモ，クロモなどが混生するため

池がある。

保存状況：かんがい用水として使用されているため池のなかには，農閑期における水抜きなどの管理が現在も行われているものがある。このようなため池では，富栄養化や陸地化が抑えられ，良好な群落が見られる所もある。一方，都市近郊のため池のなかには，埋立などにより，池そのものが消滅した所もある。また池は残されているが，コンクリート護岸やしゅんせつ工事，管理放棄や生活排水流入による富栄養化の進行などによって，群落は貧弱となり，更には消滅した所も多い。

県内各地のため池については調査記録のないものも多く，これらの中には希少種の生育が指摘されているものもあることから，今後これらのため池の植物相および植生の詳細な調査が望まれる。

所在地：県内各地に点在する。一例として，大平村下唐原，北九州市小倉南区長行。

(須田)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：A(福岡県)

セキショウモ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：なし

指定：柳川のクリーク水生植物群落(ニッ川の水生植物群落) 環境庁特定植物群落(D)

群落の特徴：ニッ川は矢部川から導水している沖端川の分流で，比較的清潔な水が流れる小河川である。特に三橋町内を流れている3.7kmの範囲(取水口のニッ川水門から三柱神社付近)は，河川中に多くの水生植物が生育している場所である。

一般に沈水・浮葉植物はパッチ状に分布しているので，地点により水生植物群落の構成種は違いがある。上記の範囲では，セキショウモが最も広く生育しているが，局所的には他種が高密度の所もある。出現種はセキショウモに次いで，エビモ，ヤナギモが多く，また上流域にはクロモ，ホザキノフサモ，ササバモが比較的多い。中流域にはオグラコウホネが出現し，上記のほかイバラモ，センニンモも出現し，豊かな水生植物群落を形成している。帰化植物のオオカナダモも群生しているが，全域にわたって繁茂していることはない。柳川市街の近くを流れる下流域においても水生植物の密度は高い。

群落構成：上流域の久富橋付近では，セキショウモが優占し，次いでオグラコウホネの密度が高い。ほかにオオカナダモ，エビモ，クロモを混生する。オグラコウホネは沈水葉のみの地点もあるが，浮葉を出し，更に花茎を出し開花している地点もある。下流域の西鉄鉄橋付近においてもセキショウモが優占し，次いでオオカナダモの密度が高い。

保存状況：ニッ川は沖端川を通して矢部川の水を導水しているため，若干の生活排水の流入は見られるが水質はそれほど悪化しておらず，水生植物群落の状況も比較的良好である。この河川の水は，かんがい用水ばかりでなく，生活用水として利用されてきた。このため，現在はほとんど使用されていないが，今でも川岸に階段を設けている民家が多く，河川浄化に対する地域住民の理解が感じられる。

所在地：三橋町蒲船津ほか

(須田)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：A(福岡県)

ガシヤモク群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：なし

指定：小倉南区のガシヤモク群落 環境庁特定植物群落(B・H)

群落の特徴：お糸ヶ池は、平尾台南端の竜ヶ鼻の北西山麓(標高100m)に位置し、石灰岩地からの水流が流れ込む面積0.7haのため池である。この池は石灰岩成分に由来すると考えられる青碧色の池面を呈しており、周囲の森林と相まって景観的にも美しい。

この池のかなりの部分に、沈水植物のガシヤモクが生育している。本種は、かつて千葉県の手賀沼や印旛沼に大群落を形成していたが、両沼とも水質汚濁の進行により消滅しており、現在、国内では数カ所しか自生が確認されていない(国外では中国大陸に分布する)。また、この池にはガシヤモクとササバモとの雑種と考えられるインバモも生育しており、やはり数カ所しか自生が確認されていない。この池の沈水植物群落は、この2種類のみで構成されている。なお、この池にはササバモは自生しておらず、インバモ定着の経緯についても興味深いところである。

群落構成：ガシヤモクは池のかなりの部分に出現し、高密度の純群落を形成している所も多い。水深は最大で2m程度である。比較的岸寄りの部分ではインバモと混生している所もあるが、概してガシヤモクの方が密度が高い。また、水深の浅い部分にはインバモの純群落が局所的に見られる。

保存状況：お糸ヶ池は山麓部にあり生活排水の流入もないので、群落状態はほぼ良好である。しかし、ガシヤモクの生育に適した環境条件や繁殖特性など、保全に必要な情報はほとんどない。かつて大群落を形成していた手賀沼や印旛沼で絶滅した事例もある。この群落は県内唯一であり、国内でも希少なものである。現在の生育環境を今後も維持していくことが望まれる。

所在地：北九州市小倉南区呼野

(須田)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

ヒモヅル群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：御所ヶ谷のヒモヅルを含むアカマツ林(ヒモヅル群落) 環境庁特定植物群落(B・H)，筑豊県立自然公園普通地域

群落の特徴：本県でヒモヅルの自生が確認されているのは御所ヶ谷のみである。生育地の地質は花崗岩でその表土は1m足らずである。地下水がしみ出るような斜面で土壌水分は多い。周辺の地形は北向きの袋状の谷になっており、斜面はアカマツ林である。その一部にヒモヅルが群生している。

群落構成：群生地はアカマツを中心とした疎林で、樹高も低く10m足らずである。亜高木層や低木層にはクロキ、クリ、リョウブ、カマツカなどの陽樹が多い。林床には草丈が1.5mにもなるウラジロが密生し、林床内部は湿度が高い。ヒモヅルはそこからはい登り、樹木に絡むように5mほど延びている。植被率は10~20%で、遠くから見るとスイリュウヒ

バ状に見える。

保存状況：この地区一帯には神籠石や山城の跡地などの史跡が多く、加えて不動明王を祀るほこらもあり見物客が多い。地元ではこうした遺跡の保護に努めているとともに環境整備を行っている。以前はヒモヅル群落に関して立て札が立てられるなど、保護、管理が行われていた。現在、柵などは設けていないが盗掘されることはないようである。栽培できる山野草ではないためと思われる。密閉した林床が疎開するなど、現在の環境に何らかの変化が生じれば絶滅すると考えられるので、注意が必要である。

所在地：行橋市津積

(神崎)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

ツクシオオガヤツリ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：1. 福岡城濠内の水生植物群落(B) 福岡県天然記念物(ツクシオオガヤツリ)；2. 千鳥ヶ池の水生植物群落 環境庁特定植物群落(B)

群落の特徴：ツクシオオガヤツリを含む水生植物群落で、抽水・浮葉・沈水植物からなる。熱帯～亜熱帯性の植物であるツクシオオガヤツリは、国内では関東の2～3県、九州の2～3県でしか知られていない希少種で、福岡城の濠が基準産地である。近年、古賀市の千鳥ヶ池ほか、福岡市室見川河畔、小郡市若山堤でも確認されている。一部の個体群は移植されたものと見られている。

群落構成：抽水植物のツクシオオガヤツリ、ヨシ、マコモ、ハス、キショウブ、ポントクタデなどのほか、浮葉植物のヒシ、沈水植物のオオカナダモが混生して群落を形成する。抽水植物群落は池岸や浅水

域に、浮葉沈水植物群落は深水域に生じる。

保存状況：現時点での保存状態はやや良好である。しかし、生育地が人家付近や公園内にあり、美観を保ち悪臭や害虫を防ぐための管理が行われているので、今後の存続は不明である。千鳥ヶ池では急速に個体数が減少している。ツクシオオガヤツリは株や種子で繁殖するので、本種の維持のためには成長期、開花結実期、休眠期の底泥しゅんせつ、草刈り、焼却などは慎重に行うことが望まれる。

所在地：1. 福岡市中央区城内；2. 古賀市千鳥

(神野)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

ススキーネザサ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：4

指定：1. 平尾台の石灰岩台地植物群落(ススキーネザサ群落) 環境庁特定植物群落(E・H)，北九州国定公園特別保護地区・第1種・第2種・第3種特別地域；2. 香春岳のススキーネザサ群落(E) 筑豊県立自然公園普通地域；3. 田川市ロマンスヶ丘の石灰岩地植物群落 環境庁特定植物群落(D・E)，筑豊県立自然公園普通地域；4. 牛斬山稜線の山地草原 環境庁特定植物群落(E)，筑豊県立自然公園普通地域；5. 夜須高原のススキーネザサ群落(E・G) 夜須町自然環境保護地域

群落の特徴：本県のススキーネザサ群落は、石灰岩台地や石灰岩を母岩とする土壌地域に分布する群落と、一般的な山地に分布する群落に二分される。前者は平尾台に代表される。ピナクルの点在する丘陵部(羊群原)のほぼ全域にわたってススキ草原が展開する。また表土が浅い丘陵の頂などで、ヒメアブラスキ群落が見られる。香春岳二ノ岳、三ノ岳、田川市ロマンスヶ丘も似た植生であるが、田川市関の山ではススキに代わってチガヤが多い。

一般的な山地性草原としてのススキーネザサ群落は、風衝地として樹木の生育が制限され、遷移の進行が抑えられている北九州市の皿倉山から足立山、戸の上山の稜線(防火帯)、福智山地の稜線、県中央部の夜須高原などに分布している。夜須高原は標高300～500mの起伏のある高原で、昔から入会採草地として利用されてきた。各種施設の開設、植林や雑木林化などで面積が減少しつつあるものの、一部では毎年火入れが行われ、原野の様相が保たれている。

群落構成：各地のススキ草原に共通して見られる種

はススキ、ネザサをはじめ、マルバハギ、トダシバ、コマツナギ、ワラビなどである。かつては夜須高原にはオキナグサ、キキョウ、カワラナデシコ、リンドウ、センブリ、ナンバンギセル、コオニユリ、キセワタ、キンランなど、平尾台ではホタルカズラ、ミシマサイコ、ハバヤマボクチ、ムラサキ、オキナグサなどが見られたが、近年は著しく減少し、いずれも希少種化している。なお、福智山から牛斬山に続く尾根筋に見られる草原は、ネザサを欠くススキ群落である。

保存状況：各地で開発により減りつつある群落である。特に、平尾台、関の山は石灰岩の採掘で山そのものが次第に消滅している。平尾台は観光地として多くの人たちが訪れているが、大型ゴミの投棄、山野草の盗掘、オートバイ、四輪駆動車の草原内乗り入れなどの問題が起きている。

所在地：1. 北九州市小倉南区新道寺ほか；2. 香春町香春；3. 田川市夏吉；4. 方城町伊方ほか；5. 夜須町三箇山 (神崎)

雑木林 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：なし

指定：耶馬日田英彦山国定公園特別地域・普通地域，各県立自然公園特別地域・普通地域，各市町村緑地保全地域など 群落選定基準(E・F・G・H)

群落の特徴：雑木林は，古くより生活利用のため，定期的に人手が加えられてきた林である。

群落形態は常緑樹二次林，常緑・落葉混交二次林，落葉樹二次林に大まかに区分され，薪炭，粗朶^{そた}，木灰，用具など，利用の仕方により群落形態が異なる。いずれの林分も定期的な伐採により，萌芽性の強い樹種が選択的に残された。また，炭焼利用では，樹種の選別がなされている場合もある。

群落立地は集落近くの平野，丘陵部が多いが，山麓部や山間地では山中や稜線部まで広がっている。昭和20年代までは入会地として利用された林分も多く，10～20年周期で伐採が繰り返されてきた。多くが古くより1960年頃まで薪林地や榛莽地^{しんぼう}，低木林であった。

群落構成：常緑樹二次林(シイ・カシ萌芽林)はスダジイ，コジイ，アラカシ，タブノキ，ヤブニッケイ，ヤブツバキ，クロキ，クスノキなどの照葉樹が，高木層，亜高木層を形成し，樹高8～15mで，多くの個体は萌芽しながら成長している。林床は比較的暗く草本層はやや貧弱であるが種数は多い。

常緑・落葉混交二次林はアカマツ，アラカシ，クロキ，クスノキ，シャシャンボ，ナナミノキなどの常緑樹と，コナラ，ハゼノキ，リョウブ，ネジキなどの落葉樹が混在して高木層，亜高木層を形成している。低木層は一般にヒサカキが優占し，ネズミモチ，ヒメユズリハ，シロダモ，タブノキ，スダジイなどの常緑樹や，サルトリイバラ，ミツバアケビ，ヤマフジなどのつる植物が多い。草本層は林分によりネザサ，コシダ，ウラジロなどが優占している。

これらの林は相観的にアカマツ林と，アカマツを欠く常緑・落葉混交二次林に分かれるが，後者にはアカマツ枯死後の残存林が多い。

アカマツは，かなり古くより窯業，製塩などの燃料に利用されていたことが考古学資料などで報告されている。例えば大野城市牛頸山周辺に点在する牛頸窯跡群では，6世紀から8世紀にかけて大量の須恵器が焼かれた。この燃料はアカマツであったと考えられている。この時代，すでに福岡平野南部の丘陵から低山地にかけては，かなりの範囲でアカマツを中心とした雑木林が広がっていたと推定される。このようなアカマツなどの薪炭利用は，沿岸部の製塩

や，初期のたたら製鉄などでもなされたと推定されている。近代では筑豊平野を中心とする石炭産業で，坑木などに大量のアカマツが使用された。

落葉樹二次林は標高により群落形態が異なる。標高700m以上の山地帯では，夏緑樹林などの伐採跡にアカシデーイヌシデ群落が見られる。三郡山地の林分では，高木層はアカシデ，リョウブ，コハウチワカエデを中心に，カナクギノキ，ヤマザクラで構成され，胸高直径10～25cm，樹高8～12mで密生している。亜高木層以下の各層の優占種はコバノミツバツツジ，コガクウツギ，ヤマツツジ，ツルシキミ，ウンゼンカンアオイなどである。また，脊振山地の稜線部では数カ所で萌芽したリョウブが優占する低木林が見られる。これらの林分は，主に炭焼きのため古くより維持されてきたもので，1970年頃までは県内の夏緑樹林帯の山地で稜線部まで伐採し，谷筋で炭を焼く風景が見られた。その後，これらの林分は利用されることなく放置され，現在，夏緑樹林二次林として成長を続けている。

低山帯や山麓・丘陵部ではコナラーノグルミ林，コナラクヌギ林などが見られる。これらの群落は，高木層はコナラ，クヌギ，ノグルミ，カラスザンショウ，ホオノキ，ハゼノキなどの落葉樹が多く，林分によってはアカマツ，アラカシ，タブノキ，ヤマモモなどの常緑樹を混じえている。亜高木層以下ではクロキ，ヒサカキ，ネズミモチなどの常緑樹が多く，草本層では一般にコシダ，ウラジロ，ヤブコウジ，ヤマツツジなどが優占する。クヌギ，コナラは主に薪炭やシイタケのほだ木，ノグルミは下駄，経木，マッチの軸，漁網染色，ホオノキは下駄，版木，器具材などに利用された。

現在，雑木林のほとんどは利用されることなく成長を続けているが，近年，雑木林に依存する豊富な動植物群が見直され，種，遺伝子の保存の場として，また多様な動植物のハビタットとして重要であると認識されている。

また，一部のクヌギーコナラ林等現在も利用されている雑木林については，このような環境をハビタットとしている希少種保護のため，皆伐を避けるなど施業上の何らかの配慮が必要と思われる。

(冷川)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：C(福岡県)

クロマツ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1～3

指定：1. 椎田海岸のクロマツ林 環境庁特定植物群落(F)，筑豊県立自然公園普通地域；2. 三里松原のクロマツ林(F) 玄海国定公園第1種特別地域；3. さつき松原のボウランを含むクロマツ林 環境庁特定植物群落(F)，玄海国定公園第1種特別地域；4. 新宮松原・古賀松原・福岡海岸のクロマツ林(F) 玄海国定公園第1種特別地域；5. 海の中道のクロマツ林(F) 玄海国定公園第1種特別地域；6. 大原松原のクロマツ林(F) 玄海国定公園第1種・第2種特別地域；7. 幣の松原のクロマツ林(F) 玄海国定公園第1種特別地域

群落の特徴：筑前・豊前の砂丘では、潮風飛砂害から後背の農地や集落を保護するため、藩政初期(1600年頃)から藩営・民営でクロマツの大規模な造林事業が推進された。本格的な植林が始まるまでの海岸砂丘の景観は、風衝形を呈したクロマツの疎林と砂丘草原であったと推定される。第二次大戦中は航空機燃料改良材に、クロマツから松根油が採られた。戦後は広範囲に虫害が発生し、また、都市の膨張やレジャーの多様化により、市街地やゴルフ場化した林分も多く、博多湾岸では著名な松原が消滅した。

群落構成：成熟したクロマツはおおむね風衝形を呈している。群落高は林齢のほか、風衝の程度に応じて変化する。上層にクロマツが優占し、中層以下に照葉樹が密生する高木林では、一般に腐葉土層は厚い。この型では、クロマツが病虫害で枯れると中層の照葉樹が目立ち、照葉樹林状態になる。高木のクロマツには下枝が無い。

上層にクロマツが優占し、中層は疎開、地表に草本やコケ類が密生または疎生する高木林では、林床

植物が少なく、落ちた松葉だけが目立つ林分もある。腐葉土層は薄い。クロマツは下枝を欠く。

成林途上の亜高木林では、クロマツ以外の植物は少なく密林状態である。下枝はほとんど枯れて、成長とともに落下する。密度は自然間引きにより漸減する。砂浜に植栽後間もない低木林では多数の砂浜植物が残る。風倒病虫害跡地に補植した場合は、前世林の草本や稚樹のほか、路傍植物が生じる。

保存状況：病虫害による枯損が常時見られる。腐葉土層の厚いクロマツ-照葉樹型の林分では、クロマツが病虫害で枯れ、照葉樹林化することが多い。補植、枯損木の伐倒、搬出、薬剤処理、病虫害防除などの森林管理はおおむね行き届いている。しかし、不法な伐採や砂の採取が行われている事例もある。

所在地：1. 椎田町字留津；2. 芦屋町芦屋，岡垣町吉木ほか；3. 玄海町田野；4. 福岡町花見浜，古賀市古賀，新宮町下府；5. 福岡市東区奈多，西戸崎；6. 福岡市西区今津；7. 志摩町芥屋，小金丸 (神野)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

ハマオモト群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：3

指定：1. 玄界島のハマオモトを含む海浜植物群落 環境庁特定植物群落(G・H)，玄海国定公園第2種特別地域；2. 姫島のハマオモトを含む海浜植物群落 環境庁特定植物群落(G・H)

群落の特徴：ハマオモト(ハマユウ)が優勢な海岸草本群落。礫質海岸または砂質海岸の汀線やその内陸側に線状または帯状に生じる。玄界島では西部の、姫島では曾根崎の礫質海岸に見られる。このほか、芦屋海岸、大島、神湊付近の勝島や白石浜、博多湾雁ノ巣鼻などにも小規模な群落がある。ハマオモトは海流散布種子を作る。県内ではおおむね西向きの海岸に分布する。芥屋大門付近の群落は消滅した。

群落構成：ハマオモト，ハマゴウ，ハマヒルガオ，ハマエンドウ，ハマナタマメ，ハマゼリ，ハマウド，ハマボウフウ，ハマボッス，ハマダイコン，ツルナなどの海岸植物，チガヤ，ツルボ，ギシギシ，メマ

ツヨイグサ，オオマツヨイグサなどの路傍植物が種々の優占度で混生し、群落を形成する。

保存状況：踏みつけによる攪乱があるが、保存状態はおおむね良好である。ハマオモトは長命で、種子の発芽率も高い。したがって、高波、踏みつけ、盗掘などの害が無ければ、群落の維持は今後とも可能であろう。しかし、近年、玄界島ではハマオモトヨトウの幼虫による株、葉、種子への食害が見られる。なお、玄界島では群落の中心付近までコンクリート道路が延びており、影響が懸念される。

所在地：1. 福岡市西区玄界島；2. 志摩町姫島 (神野)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

コウボウムギ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1～2

指定：1. さつき松原の海浜植物群落 環境庁特定植物群落(D)，玄海国定公園第1種特別地域；2. 雁の巣の海浜植物群落 環境庁特定植物群落(D)，玄海国定公園第1種特別地域；3. 幣の松原の砂丘植物群落 環境庁特定植物群落(D)，玄海国定公園第1種特別地域

群落の特徴：海岸砂丘は、海からの塩分や強風の影響を絶えず受け、砂の移動、乾燥、貧栄養など、植物の生育にとって厳しい環境条件となっている。このような海岸砂丘には、コウボウムギ、ケカモノハシ、ハマヒルガオ、ハマニガナ、ハマボウフウなど、長い地下茎または直根を地中深くに発達させて砂の移動に耐え、乾燥にも耐性をもつ植物が生育している。これらの植物を主な構成種とする海浜砂丘植物群落は玄界灘沿岸のさつき松原、雁の巣、幣の松原などに見られる。

群落構成：砂の移動が最も激しい汀線近くには、ケカモノハシを欠くコウボウムギ群落が成立するが、県内の海浜砂丘ではあまり発達していない。最も多く見られるのは、ケカモノハシを混生するコウボウムギ群落で、前者よりもやや安定した立地に成立する。この群落は、コウボウムギが優占し、次いでケ

カモノハシが多く、ハマヒルガオ、ハマニガナ、ハマボウフウなどを混じえ、場所によってはハマグルマ、ビロードテンツキ、オニシバ、帰化植物のコマツヨイグサなども出現する。また安定した立地になるに従い、ハマエンドウ、ハマゴウなども混じえる。

保存状況：玄界灘沿岸の海岸砂丘は、海岸侵食のため海浜幅が縮小している場所があり、そのような所では本群落の面積も減少傾向にある。また、防潮護岸の建設や飛砂防止工事などにより、本群落は攪乱を受けている場合もあり、保存状況は概して良好とはいえない。

所在地：1. 玄海町田野；2. 福岡市東区雁の巣；3. 志摩町小金丸

このほか、芦屋海岸、三里松原、新宮浜など玄界灘に面する各地の海浜にも見られる。

(須田)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

ウラジログシ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：1. 犬鳴峠のウラジログシ林 環境庁特定植物群落(A・G・H)，太宰府県立自然公園普通地域；2. 城山の自然林(ウラジログシ群落) 環境庁特定植物群落(A・E)；3. 香春岳のウラジログシ群落(D・E)，筑豊県立自然公園普通地域

群落の特徴：高木層にウラジログシまたはイスノキが優占する照葉高木林で、群落高は20m前後である。犬鳴峠南方約500m付近の北東斜面一帯、城山主稜一帯、香春岳二ノ岳山頂部などに見られる。

群落構成：犬鳴峠や城山では、林冠にイスノキ、ウラジログシ、アラカシ、シイノキ、ヤブニッケイ、カゴノキ、イヌガシ、タブノキ、モッコク、クロキ、モチノキなど、林床にヒサカキ、ヤブツバキ、ネズミモチ、ホソバタブ、シキミ、アオキ、ヤブコウジ、イズセンリョウ、アリドオシ、キツタ、テイカカズラ、ナガバジャノヒゲ、ツワブキ、ベニシダ、トウゲシバ、コバノカナワラビなどが見られる。

一方、香春岳の群落は、外観や種組成は前記2群落に似るが、石灰岩地帯にあるためイワシデ、イワツクバネウツギ、オオコマユミ、パイカウツギ、シロバナハンショウヅルなどの好石灰植物が生じる。またイスノキは見られない。

保存状況：香春岳の群落は伐採や石灰岩採取による群落破壊の恐れがある。ほかの群落は人為的影響が少なく保存状態は良好である。

所在地：1. 久山町久原；2. 宗像市石丸、岡垣町上畑；3. 香春町香春

(神野)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

ブナ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：1. 犬ヶ岳の自然林(ブナ群落) 環境庁特定植物群落(A・H)，耶馬日田英彦山国定公園第2種特別地域；2. 英彦山の自然林(ブナ群落) 環境庁特定植物群落(A・H)，耶馬日田英彦山国定公園特別保護地区・第2種特別地域；3. 脊振山の自然林(ブナ群落) 環境庁特定植物群落(A)，脊振雷山県立自然公園第1種・第2種特別地域；4. 三郡・宝満山の自然林(ブナ群落) 環境庁特定植物群落(A)，太宰府県立自然公園第1種特別地域；5. 釈迦・御前岳の自然林(ブナ群落) 環境庁特定植物群落(A)，矢部川県立自然公園第2種特別地域

群落の特徴：本県のブナ群落は、ブナ-シラキ群集に分類され、標徴種および識別種にシラキ、コハウチワカエデ、タンナサワフタギ、コソクバネウツギなどを伴う。この群集は、クマイザサ亜群集、コバノミツバツツジ亜群集、典型亜群集に区分される。

クマイザサ亜群集は林床にクマイザサが生育しているもので、英彦山(標高1200m)、犬ヶ岳(1131m)の約1000m以上のやや平坦部に分布する。この地域が県内で積雪量が多いことに関係していると思われる。コバノミツバツツジ亜群集は林床にミヤコザサが生育する脊振山地(脊振山1055m、雷山955m)と、ササ類が生育していない三郡山地(三郡山936m、宝満山829m)、古処山地(古処山862m、馬見山978m)に分けられる。ミヤコザサはスズタケより積雪量が少なく乾燥した環境に分布するもので、脊振山地が花崗岩質で透水性が高く、風の強い地域であることなどに関係していると思われる。典型亜群集は林床にスズタケが生育しており、釈迦岳山地(釈迦岳1230m、御前岳1209m)の尾根筋北斜面と、英彦山および犬ヶ岳の800~1000m付近北斜面に分布する。

群落構成：英彦山、犬ヶ岳のブナ-クマイザサ林は、ブナの樹高が20m前後、胸高直径は40~50cm、中には100cmに達するものもある。高木層はブナのほかコハウチワカエデ、クマシデなど、亜高木層にベニドウダン、ナツツバキ、シロモジ、タンナサワフタギ、マルバアオダモなど、低木層以下は密生するクマイザサの中にタンナサワフタギ、マルバアオダモ、リョウブ、オオカメノキ、ウスゲクロモジなどが点在している。

脊振山地のブナ-ミヤコザサ林は、ブナの樹高15~20m、胸高直径は20~30cmのものが多く、二次林的要素が強い。高木層はブナのほかコハウチワカエデ、イタヤカエデ、アカシデ、アカガシなどが混在し、亜高木層にコバノミツバツツジ、シラキ、コハウチワカエデ、ネジキ、低木層以下にミヤコザサのほかウスゲクロモジ、オオカメノキ、シロモジ、ツリバナ、コガクウツギ、ウンゼンカンアオイなどが見られる。古処山地および三郡山地のブナ林は広範

困な林分は見られず、ブナの樹高は20m前後、胸高直径30~50cmのものが多い。高木層はブナのほかにコハウチワカエデ、クマシデ、リョウブ、アカガシなど、亜高木層はシラキ、タンナサワフタギ、シロモジ、コバノミツバツツジ、シロダモ、ヤブツバキなど、低木層はアオキ、コガクウツギ、ツルシキミ、シロダモ、シキミなどが見られ、照葉樹林帯の構成種が多いのが特徴である。草本層は優占種は少ないが種数は多い。

釈迦岳山地および英彦山・犬ヶ岳のブナ-スズタケ林は、ブナの樹高は15~25m、胸高直径は40~50cmのものが多い。高木層はブナのほかミズナラ、リョウブ、コハウチワカエデ、イヌシデなどで、亜高木層はリョウブ、ミズナラ、コハウチワカエデ、シロモジ、コミネカエデなど、低木層以下はスズタケで占められ、わずかにシロモジ、ウスゲクロモジ、タンナサワフタギ、オオカメノキなどが点在する。釈迦岳山地はミズナラと混交する林分が多いが、英彦山のスズタケ域はミズナラの常在度が低く、モミ、シキミ、ハイノキの常在度が高い。

保存状況：ブナの林分が一定の広がりをもつものとしては、英彦山、犬ヶ岳が最も優れている。釈迦・御前岳、脊振山は尾根筋にかるうじて残存し林分も小さい。ほかの分布域は更に個体数が少なく混合林的要素が濃い。英彦山・犬ヶ岳、釈迦・御前岳、脊振山の各山地のブナ林は、3亜群集を代表する指標として貴重である。しかし、それぞれの林床にはササ類が密生しブナの更新が困難である。また、1991年の台風被害によるブナの倒木は、半数以上に及んでいる。更に、林道や観光開発に伴う伐採などの人的要因も大きく、一部では植生の復元も試みられているものの、総合的ブナ林保護の対策が望まれる。

所在地：1. 豊前市鳥井畑ほか；2. 添田町英彦山；3. 福岡市早良区板屋、椎原ほか；4. 太宰府市北谷ほか；5. 矢部村北矢部

以上のほか、甘木市および筑穂町にまたがる古処山~屏山山頂尾根、脊振山地の前原市雷山などに林分は小さいが残存している。(宝理)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

山地岩角地植物群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：1. 望雲台の岩角地植物群落 環境庁特定植物群落(D・G・H)，耶馬日田英彦山国定公園第2種特別地域；2. 日向神の岩角地植物群落(D・G) 矢部川県立自然公園第2種特別地域

群落の特徴：矢部村の岩角地は，日向神，八知山で代表される。日向神は安山岩性の岩峰群で，植物はあまり密生せず，岩体の節理崩壊部分を中心に小群落が形成されている。南向きの天戸岩，正面岩と比べ，北向きの蹴洞岩は湿潤で岩表がコケ類に覆われる部分も多くトダシバ，ヒトツバ，イワヒバ，カタヒバなどの群落も大きい。通称小日向神と呼ばれる八知山は，種類は少ないが岩壁の広い範囲にわたって生育するイワヒバ大群落は絶景である。

添田町英彦山は玉屋神社付近の岩壁で代表される。大規模な岩場は古くから修験者の行場となった場所で，人為的影響も少なく種数も多い。しかし，かつて多数見られたウチョウランは絶滅した。

群落構成：日向神は，土壌化の進んだ崩壊部分はアカマツ，アラカシなどの亜高木が斑状や帯状に分布し，その他の岩壁部分の緩斜面および節理の湿潤部分にアカマツ，マルバアオダモ，トダシバ，イワヒバ，カタヒバ，セッコク，オオアブラススキ，タカネマンネングサ，チャボツメレンゲなどが生育して

いる。セッコクはトダシバ，イワヒバと混生することが多い。小日向神は種類が少なく，低木のアラカシ，ネムノキ，コナラ，草本のトダシバなどがわずかに生育し，岩壁の3分の1はイワヒバ大群落で占められる。英彦山は亜高木のアカマツ以外は低木以下で構成される。常在度の高い植物はゲンカイツツジ，キハギ，マルバアオダモ，ネジキ，ヤマツツジなどで種数が多い。草本にイワギボウシ，イワヒバ，シノブ，コオニユリ，セッコクなどが見られマメツタラン，ツメレンゲなど希少植物も生育している。

保存状況：日向神は1985年の岩体の滑落以来，ネット設置など修復工事が継続され，天戸岩，正面岩，蹴洞岩などを残し多くの植物が減少している。小日向神はキャンプ客による盗掘などの影響が懸念される。英彦山は1991年の台風19号による表土の滑落によって，多くの貴重な植物が失われた。今後，観光開発などによって植生が消滅する可能性がある。

所在地：1. 添田町英彦山；2. 黒木町大淵，矢部村北矢部 (宝理)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

アラカシ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：1. 内尾薬師のアラカシ林 環境庁特定植物群落(D・H)；2. 香春岳のアラカシ群落(D・E) 筑豊県立自然公園普通地域

群落の特徴：アラカシは多様な場所で見られ，特に石灰岩台地の傾斜角35～50度の急崖地に多い。香春岳二ノ岳東斜面に見られる群落は石灰岩の露頭が比較的少ない急傾斜地に分布している。伐採後50～60年を経過した二次林であるが自然状態はよい。内尾薬師の群落は，平尾台から水晶山(標高531m)を経て東側に延びた稜線の一角にある。樹高10m未満のアラカシが密生し，高木層を欠き，それぞれの直径は10～20cm程度で，平地に見られるような巨木は見られない。林床は石灰岩の露頭や岩塊で覆われるため，草本層の植被率は30%程度である。

群落構成：香春岳のアラカシ群落では，高木層にヤブニッケイ，イロハモミジ，カゴノキ，ナナミノキなどがあり，低木層にはアオキが多い。草本層にナンテンのほか多くの種が生育している。キドイノモ

トソウ，モロコシソウ，オニシバリなど希少植物も生育している。内尾薬師のアラカシ群落の主な種はビワ，ナンテン，オニシバリ，コバノチョウセンエノキなど好石灰岩性の植物で，アラカシナンテン群集に同定されている。この群落より麓側のアラカシ林は，土壌が深く含水量も多い立地に生育し，林内にバクチノキやクスドイゲなどを伴い，樹高は15mにも達し，高木層の発達した群落となる。

保存状況：いずれの地域も岩角地であり，人の侵入は少ない。また香春岳では，林内はニホンザルの生息域である。これらの地域はセメント工場による石灰岩の採掘が行われており，採石場の拡張に伴う樹木の伐採などの可能性がある。

所在地：1. 苅田町馬場；2. 香春町香春 (神崎)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：A(福岡県)

ヤブニッケイ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：平尾台の石灰岩台地植物群落(ヤブニッケイ群落) 環境庁特定植物群落(B・D)，北九州国定公園特別保護地区・第1種・第2種・第3種特別地域，筑豊県立自然公園普通地域

群落の特徴：平尾台ではドリーネや羊群原の所々に小さな樹林が見られる。広谷や大穴などの調査からドリーネという特殊地形と，定期的な火入れにより成立した植生として，ヤブニッケイ-ヤマヤブソテツ群集とされていたが(須股，1973)，その後，石灰岩地の森林植生であるアラカシーナンテン群集と合わせてタブ-ヤマヤブソテツ群集と同定されている(宮脇，1981)。この群落はヤブニッケイ，タブノキ，シロダモなどのクスノキ科の樹木を優占種とする林分で，シイやカシ類のような堅果性の種子をつける植物をほとんど欠いているのが特徴である。

群落構成：高木第1層をタブノキ，第2層をヤブニッケイが構成する部分が多い。カヤが第1層を構成したドリーネもある。高木層といえども多くは高さ10mくらいで亜高木に近く，樹齢もまだ若い。高木層

・亜高木層にはタブノキ，ヤブニッケイ，シロダモのほかイヌガヤ，イヌビワ，ネズミモチ，エノキ，ムクノキ，チシャノキなど，低木層にアオキ，ブンゴウツギなど，草本層にヤマヤブソテツ，ジャノヒゲ，マメツタ，テイカカズラ，コアカソ，イワガラミなどが高常在度で出現する。コバノチョウセンエノキ，イボタノキ，バイカウツギ，コショウノキ，オニシバリ，サンショウなどの好石灰植物も多数出現する。

保存状況：山焼きという人為的な営みの中で生まれた貴重な植物群落であり，保存されていくことが望まれる。

所在地：北九州市小倉南区新道寺，荻田町谷，行橋市矢山ほか

(熊谷)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：C(福岡県)

アカシデーイヌシデ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：1. 犬ヶ岳の自然林(アカシデーイヌシデ群落) 環境庁特定植物群落(E)，耶馬日田英彦山国定公園第2種・第3種特別地域；2. 福智山の自然林(アカシデーイヌシデ群落) 環境庁特定植物群落(E・H)，北九州国定公園第1種・第2種特別地域；3. 脊振山の自然林(アカシデーイヌシデ群落) 環境庁特定植物群落(E)，脊振雷山県立自然公園第1種・第3種特別地域

群落の特徴：北部九州の標高500m以上で見られる。夏緑樹林帯下部の林で以前から薪炭林として利用されたが，伐採をまぬがれた林相は良好である。

群落構成：稜線近くの林分はアカマツやリョウブ，コバノミツバツツジなどを伴い，林床はシシガシラ，イワガラミ，ノガリヤスなどの陽地性の植物が多いが，これは冬季の入射光量が豊富なことによるようだ。近年アカマツは虫害で減少し，リョウブ，コナラなどの林に代わりつつある。

比較的自然度の高い群落は山の中腹部に見られる。高木層は胸高直径40cmを越え，樹高15m程度になる。ヤマボウシ，ミズメ，ウリハダカエデ，コシアブラなど落葉樹が圧倒的に多い。亜高木層および低木層はクロモジ類，タンナサワフタギ，ツリバナ，シラキのほか，ヤブツバキ，カゴノキなどの照葉樹も混じる。林床植生は，北斜面側ではミヤマカンズゲ，ヒトリシズカ，フタリシズカなどのほか，山地によりキバナアキギリ，ルイヨウボタン，ハシリド

コロ，ジンジソウ，ダイモンジソウなど，南側や露岩の多い尾根筋にはコバノミツバツツジ，コゴメウツギ，ヤマグルマ，ウグイスカグラなどが出現する。

保存状況：シデ林は国有林・公有林に多く，かつては薪炭利用に供された林分が多いが，その後放置され回復途上にある。また，1970年代の拡大造林時代には林道建設でシデ林域が最も被害を受けた。道路脇では，ススキ，ノリウツギ，アカメガシワ，カラスザンショウの侵入も多い。林内には山地性の貴重種が非常に多く，環境変化に対応できないものも多い。現在の林分はその回復してきたものである。

今後とも保存されていくことが望ましい。

所在地：1. 豊前市鳥井畑ほか；2. 北九州市小倉南区頂吉ほか；3. 福岡市早良区板屋，椎原

このほか，宝満山から三郡山にかけての主稜付近，古処山地上部，釈迦岳山地などにも見られる。

(神崎)

スダジイ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1～2

指定：1. 平山観音寺のスダジイ林(E)；2. 日合神社のスダジイ林(E)；3. 伊川の天疫神社のスダジイ林(A・E)；4. 吉志の天疫神社のスダジイ林(E)；5. 荘八幡のスダジイ林(E)；6. 八旗八幡のスダジイ林(E)；7. 貴船神社のスダジイ林(A・E・H)；8. 沼八幡のスダジイ林(E)；9. 志賀島のスダジイ林(A・E)，玄海国定公園第2種特別地域；10. 香椎宮のスダジイ林(E)，福岡県環境指標の森；11. 猪野のスダジイ林(E)，福岡県自然環境保全地域；12. 竈門神社のスダジイ林(E)，太宰府県立自然公園普通地域；13. 春日神社のスダジイ林(E)，福岡県環境指標の森；14. 筑紫耶馬溪のスダジイ林(E)，脊振雷山県立自然公園第2種特別地域；15. 笠置山のエノキを含む照葉樹林(E)，太宰府県立自然公園普通地域；16. 鳥屋山のスダジイ林(E・H)，福岡県自然環境保全地域；17. 大法山のスダジイ林(E)；18. 南公園のスダジイ林(E)；19. 孔大寺山のスダジイ林(E) (以上環境庁特定植物群落)

群落の特徴：スダジイ群落はヤブツバキクラスの自然植生の中では、コジイ群落とともに最も代表的なものであり、西日本の各地に見られる。福岡県におけるスダジイ群落は、主に沿海地および標高の高い箇所の常緑林に見られ、北九州、宗像、粕屋、福岡、糸島の沿海地および県内各地の標高400～700mの地域に多い。そしてこれらの地域の尾根筋、土層の薄い斜面、岩石地など主に乾燥した土壌に成立する。コジイ群落と同様、分布域は人間の活動範囲と重なっており、残存するスダジイ群落も大なり小なり人為的な影響がうかがわれる。またスダジイ群落とされた林分にコジイが含まれる場合も多い。

群落構成：沿海地のスダジイ群落は、大まかには(1)スダジイが優占する壮齢林分、(2)人為の攪乱があってスダジイの優占割合が低下しクロキ、カクレミノ、ハゼノキ、クロガネモチなどが目立つ林分、(3)スダジイの割合は低下するが、タブノキ、ヒメユズリハ、ヤブツバキ、タイミンタチバナなどが多く自然度の高い林分などに区分される。

これらの林分は、いずれも上層はスダジイが優占するものの、林分によってはヤマモモ、イチイガシ、ウラジロガシ、ヤブニッケイ、タブノキ、ヒメユズリハ、コバンモチなどが混生している。樹高は15m前後、胸高直径は20～50cmのものが多いが、まれに樹高20m、胸高直径70～80cmを越えるものもある。

亜高木～低木層では高木層構成樹種のほか、センリョウ、ヤブツバキ、ヒサカキ、タイミンタチバナ、アオキ、カクレミノ、ネズミモチ、クロキ、ミズバイなどが見られる。草本層はまれにコバノカナワラビやホソバカナワラビ、ツルコウジなどが林床を覆うこともあるが、一般に貧弱で、オオカグマ、ベニシダ、ヤブコウジ、テイカカズラ、オオアリドオシ、ヤブラン、ナガバジャノヒゲ、ハナミョウガなどが低い被度で見られる程度である。

本県のスダジイ群落はミズバイ、オオカグマ、イチイガシ、センリョウ、ツルコウジなどを標徴種とするスダジイミズバイ群集、あるいは特有の標徴種を欠き、丘陵地や尾根部など乾性立地に生じるスダジイヤブコウジ群集に同定されている。

高標高地のスダジイ群落はスダジイの優占度が低く、比較的若い林分が多い。ここでの高木～亜高木層はスダジイのほか、アカガシ、ウラジロガシ、タブノキ、カゴノキ、イスノキ、シキミなどの常緑樹やイヌシデ、アカシデ、ミズメ、リョウブなど落葉樹を含む。かつてはアカマツの多い林分もあったが、虫害や台風によりアカマツはほとんど消滅した。低木層はバリバリノキ、ハインノキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ネズミモチなど、草本層はツルシキミ、キツタなどで構成される。

保存状況：神社林のスダジイ群落は表面上保護されているように見える。しかし、駐車場やゲートボール場のため一部が伐採されたり、下草の刈り取りや林内への立ち入り、下木植栽などの人為介入が見られる。山地や河畔のスダジイ群落は新たな人工林化はほとんど見られないが、道路建設などにより消滅、分断されている箇所もある。1991年の台風被害では、再生能力に劣るスダジイに集中的に被害が発生し、林床の陽地化に伴う構成種の変化が見られる。

所在地：1. 北九州市門司区平山；2. 同区松ヶ江；3. 同区伊川；4. 同区吉志；5. 同市小倉南区貫；6. 同区長行；7. 同区朽網；8. 同市小倉南区沼；9. 福岡市東区志賀；10. 同区香椎；11. 久山町猪野；12. 太宰府市内山；13. 春日市春日；14. 那珂川町五ヶ山；15. 飯塚市庄司ほか；16. 甘木市佐田；17. 山田市下山田；18. 福岡市中央区南公園；19. 玄海町池田ほか

その他、県内各地の山麓や、標高400～700mの地域などに見られる。

(猪上)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

コジイ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：1. 豊前市大富神社のコジイ林 環境庁特定植物群落(A・E)，福岡県環境指標の森；2. 益富山のスダジイ林* 環境庁特定植物群落(E)(*実際はコジイ林)；3. 高良山のシイ林 環境庁特定植物群落(A・E)，筑後川県立自然公園第1種特別地域・普通地域；4. 清水山のコジイ林 環境庁特定植物群落(E)，矢部川県立自然公園第2種特別地域

群落の特徴：コジイ群落はヤブツバキクラスの自然植生の中では、スダジイ群落とともに最も代表的なものであり、西日本の各地に見られる。

本県におけるコジイ林は主に内陸の丘陵地に見られ、地域的には主に豊前地方、筑後地方に分布する。通常コジイ単独の群落となることが多いが、場所によってはスダジイが混生していることもある。標高は20～500mくらいの範囲で、沿海地とそれ以上の標高ではスダジイにとって代わられる。地形的には低山地の尾根筋から丘陵地にかけての、やや乾燥した土壌に見られることが多い。

県内のコジイ群落は、地域や環境、人為的介入の度合いなどによって、次のようなタイプに分かれる。

(1) 上層にアラカシを伴うくらいで、コジイがほとんど純林状態をなす林分。シイ林としては土層が厚く、生育旺盛な壮齢林に見られる。(2) コジイの優占度が高いが高木にモチノキ、クロガネモチ、亜高木～低木にシイモチ、クロバイが多い林分。斜面中部以下の土層が厚く、比較的若い林分に見られる。(3) コジイとともにタブノキ、クロキなどが多く、下層にヤブツバキが少ない林分。内陸の丘陵地などで人為介入度合いの高い林分に見られる。(4) コジイとともにタブノキ、アラカシ、コバンモチなどが多く、下層にヤブツバキも多い林分。自然度の高い神社林などに見られる。

その他コジイの優占度が低くアラカシ、ウラジロガシ、イチイガシなどの割合が高い群落や、アカマツ林から遷移して相観的にコジイ群落となったものなどもある。

群落構成：豊前地方の丘陵地に見られる神社林では、高木層は樹高15～20mでコジイのほかタブノキ、イチイガシ、コバンモチなどが多い。亜高木層以下にはバクチノキ、クスドイゲ、オガタマノキ、ミミズバイなどが見られ、林床にはホソバカナワラビやツルコウジが優占する。1991年の台風により壊滅的な打撃を受けた。

筑豊地方の丘陵地のコジイ群落は、コジイのほかウラジロガシ、タブノキ、モチノキなどを含み、

亜高木～低木層にはカゴノキ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、ヒサカキなどのほか、ハゼノキ、カクレミノ、ネズミモチ、クロキなど、草本層にはウラジロ、オオカグマ、ベニシダ、ヤブコウジ、アリドオシ、ジャノヒゲ、ササクサ、チヂミザサなどが多い。全般的には人為的要素の強い植物が多く見られる。

筑後地方の高良山や清水山の常緑林では、尾根部では樹高は12～15mくらいのコジイが優占し、これにヤマモモ、アラカシなどが加わる。斜面中部以下では、樹高が17～22mくらいになるもののコジイの割合は少し減少し、ウラジロガシ、イチイガシ、タブノキ、イスノキ、モチノキが増加する。亜高木層以下ではシリブカガシ、モッコク、ヤブツバキ、ナナミノキ、ヤマビワ、ミミズバイ、クロバイ、クチナシなどのほか、ボロボロノキやヤマモガシ、タマミズキ、カナメモチ、カンザブロウノキなど特異な樹木も見られる。草本層はオオカグマ、キジノオシダ、テイカカズラ、イズセンリョウ、ツルコウジ、アリドオシ、ハナミョウガなどが見られるが、被度は一般的に低い。

保存状況：本県のシイ林は急斜面や岩石地、乾燥地、土層の薄い箇所などスギ・ヒノキの人工林に適さない場所に断片的に残存したもの、神社林として保護された林、かつて里山林として利用されたがその後放置されている林などが多い。豊前市大富神社や大平村八社神社など豊前地方の平地林の名残を伝えていたコジイ群落は、前記の台風により壊滅的な打撃を受け、現在植栽や萌芽などによって再生中である。

益富山や高良山、清水山のシイ群落もかつて森林公園などの造成により伐採されたり、道路による森林の分断で細分化されたりしたが、現在は住民の憩いの場として保護されている。ここでも台風により多くの木が倒伏や幹折れ、枝折れなどの被害を受けた。

所在地：1. 豊前市四郎丸；2. 嘉穂町中益；3. 久留米市御井町；4. 瀬高町本吉

その他、小郡市や八女市、広川町などの丘陵地帯にも群落が見られる。

(猪上)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

アカガシ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1～2

指定：1. 砥石山のアカガシ林 環境庁特定植物群落(A)，太宰府県立自然公園第2種・第3種特別地域；
2. 三郡・宝満山の自然林(アカガシ群落) 環境庁特定植物群落(A)，太宰府県立自然公園第1種・
第3種特別地域；3. 鬼ヶ鼻のアカガシ林 環境庁特定植物群落(E・H)，脊振雷山県立自然公園第2
種特別地域；4. 福智山の自然林(アカガシ群落) 環境庁特定植物群落(E・H)，北九州国定公園第3
種特別地域；5. 大根地山のアカガシ林 環境庁特定植物群落(E)

群落の特徴：アカガシ群落は、北部九州の山地に特徴的に分布する、照葉樹林帯最上部の群落である。県内の山地でも普通に見られ、標高600m付近から群落を形成する。

アカガシは、一般に600m以上の標高を持つ山の尾根筋から斜面中部にかけて群落を形成しており、脊振山地や釈迦岳山地、英彦山地などでは、標高900m付近にまで達している。しかし、山頂付近にはあまり見られず、中腹から山頂直下にかけての雲霧帯で群落の発達が認められる。

群落構成：高木層はアカガシのほか、高い場所ではコハウチワカエデ、ブナ、ウラジロノキなどを混じえ、低い所ではモチノキなどを混じえる。胸高直径の最大値は81cm(大根地山)で、良好な林分では40～60cmの個体が最も多い。亜高木層以下ではヤブツバ

キ、クロキ、シロダモ、アオキ、ハイノキ、シキミ、カクレミノなど照葉樹林の標徴種を多く含み、このほか草本層を中心にツルシキミ、キジノオシダを伴うのが特徴的である。

保存状況：アカガシは、薪炭材や各種用材に適していることから、古くより定期的な伐採を受け、しばしば純林状の萌芽林を形成している。しかし、自然林として極相状態で安定した群落は少なく、宝満山や砥石山、鬼ヶ鼻、大根地山、福智山などの山々の一部で、良好な群落が認められるのみである。

所在地：1. 宇美町宇美；2. 太宰府市北谷、筑紫野市本道寺、宇美町宇美；3. 福岡市早良区椎原；4. 北九州市小倉南区頂吉；5. 筑穂町内野(冷川)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

タブノキ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1～2

指定：1. 白山神社のタブ林 環境庁特定植物群落(A)；2. 玄界島のタブ林 環境庁特定植物群落(E)，玄海国定公園第3種特別地域；3. 沖ノ島の自然林(タブノキ群落) 環境庁特定植物群落(A・H)，国天然記念物(沖の島原始林)，福岡県自然環境保全地域

群落の特徴：高木層にタブノキが優占する照葉高木林。タブ群落は沿岸部の平野や丘陵の深土適潤～湿潤地に広く発達していたとみられるが、古くから耕地や宅地として開発されたため、今日では典型的な林分は離島や社寺境内に残存する程度である。北九州市若松区の白山(標高180m)の山頂一帯、玄界島の中腹以上(約100～200m)、沖ノ島のほぼ全体(約50～210m)などに分布している。

群落構成：白山神社や玄界島の群落では、林冠にタブノキ、ヤブニッケイ、シロダモ、シイノキ、ホルトノキ、サンゴジュ、ハマビワ、マサキ、トベラ、ヤブツバキ、ヒサカキ、イヌビワ、林床にアオキ、キツタ、テイカカズラ、フウトウカズラ、ヤブラン、ノシラン、ムサシアブミ、ヤマアイ、ベニシダ、ホソバカナワラビ、オニヤブソテツなどが生じる。沖

ノ島の群落は、前記2群落と主要出現種や階層構造はほぼ同じであるが、種組成に若干の差異があり、シマモクセイ、ハマセンダン、ヒゼンマユミ、クワノハエノキ、ナンゴクウラシマソウ、イワヒトデ、オリヅルシダなどが出現し、シイノキを欠く。黄金谷には県内希少種のオオタニワタリが見られる。いずれもタブームサシアブミ群集に同定される。

保存状況：白山神社と玄界島のタブノキ群落は人為的影響が比較的少なく、保存状態はほぼ良好である。沖ノ島は無人島で、全体が宗像大社沖津宮の御神体となっているので、群落の保存状態は非常によい。

所在地：1. 北九州市若松区小竹；2. 福岡市西区玄界島；3. 大島村沖ノ島

(神野)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

ケヤキ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：1. 福智山のケヤキ林 環境庁特定植物群落(G・H)，北九州国定公園第3種特別地域；2. 竜ヶ鼻の自然林(ケヤキ群落) 環境庁特定植物群落(A・D・H)，筑豊県立自然公園普通地域；3. 三郡・宝満山のケヤキ群落(G・H)，太宰府県立自然公園第1種特別地域

群落の特徴：ケヤキは、県内の溪谷沿いや転石の多い急傾斜地などに広く分布している。これらの自生地のうち、比較的まとまった面積を持つケヤキ群落は、福智山東側の谷沿い(標高350～500m)、竜ヶ鼻の谷沿い(390～440m)、宝満山北西側の河原谷(550～650m)に見られる。福智山や宝満山の群落には、ケヤキのほかは小径木が比較的多く、近辺に炭焼窯跡もあることから、ケヤキの伐採は選択的に避けられたものと推測される。竜ヶ鼻の群落は、伐採が困難な立地に成立しており、自然状態が保たれている。**群落構成：**福智山の群落は、胸高直径70～90cm程度、樹高は最大で30mに達するケヤキが優占し、高木層下部または亜高木層に、タブノキ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、シロダモなどの照葉樹林構成種が高頻度で出現し、低木層はアオキが優占している。宝満

山の群落も、福智山と似た種組成を示している。竜ヶ鼻の群落は、崩壊した石灰岩の堆積地に見られ、ここでもケヤキは胸高直径60cmを越えており、高木層には、ムクノキ、エノキ、イロハモミジ、カゴノキなどが混生している。低木層や草本層にバイカウツギ、ヒメウツギなどの石灰岩地特有の種が多数出現することがこの群落の特徴である。

保存状況：福智山、宝満山の群落とも良好である。竜ヶ鼻も現時点では石灰岩の採掘予定はない。

所在地：1. 北九州市小倉南区頂吉；2. 香春町採銅所；3. 宇美町宇美

なお、脊振山地、犬ヶ岳山地などの溪谷沿いにも小規模な群落が見られる。

(須田)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

ムクノキ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：水巻町鷹見神社のムクノキ林 環境庁特定植物群落(F)

群落の特徴：高木層にムクノキが優占し、クロガネモチ、クスノキなどを伴う夏緑・照葉混交高木林。ムクノキの胸高直径は30～50cm、群落高は約20mである。遠賀川沿いの小丘上、深土適潤地に見られる。県内の照葉樹林帯下部の谷沿いに、エノキ、ムクノキが優占し、タブノキ、ヤブニッケイなどのクスノキ科植物を伴う夏緑樹林がしばしば見られるが、小丘上にムクノキが優占する例は少ない。

群落構成：高木層にムクノキ、エノキ、クロガネモチ、クスノキ、シロダモ、ヤブニッケイ、シイノキ、ホルトノキなど、亜高木層にムクノキ、ヤブツバキ、

ヒサカキ、カクレミノ、サンゴジュ、イヌビワなど、低木・草本層にタブノキ、フウトウカズラ、テイカカズラ、キヅタ、ヤブラン、ノシラン、ツワブキ、ベニシダ、ホソバカナワラビ、オニヤブソテツなどが生じる。種組成上、タブームサシアブミ群集とみなされる。タブノキ群落の一型であろう。

保存状況：神社境内にあり人為的影響は少なく、保存状態はほぼ良好である。

所在地：水巻町猪熊

(神野)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

ヒノキ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：1. 障子ヶ岳のヒノキ林 環境庁特定植物群落(C)，耶馬日田英彦山国定公園第3種特別地域；2. 望雲台の岩角地植物群落(ヒノキ群落) 環境庁特定植物群落(D・H)，耶馬日田英彦山国定公園第2種特別地域

群落の特徴：ヒノキはスギとともに最も重要な造林種で、各地に広く植林されている。このようなヒノキ人工林のほかに、県内の山地岩崖などに、規模は小さいがヒノキ自然林が分布している。代表的な群落は英彦山南西2.5kmに位置する障子ヶ岳(標高896m)の東斜面岩崖部や英彦山望雲台の絶壁頂上部に見られる。特に障子ヶ岳では、胸高直径30cmを越えるヒノキが多数生育している。

群落構成：障子ヶ岳のヒノキ群落は、群落高30mに達し、高木層にはヒノキのほか、周辺域の植生を構成しているアカガシ、ブナ、ツガなどを散生する。亜高木層はあまり発達せず、ネジキ、リョウブなどが見られ、低木層にはアセビ、ハイノキ、ツクシシヤクナゲ、ソヨゴ、シキミなど、草本層にはツルシ

キミ、ミヤマシグレ、シシガシラなどが生育している。望雲台の群落には、これらの樹種のほかに、ミズナラ、ベニドウダン、ゲンカイツツジなども混生している。

保存状況：これらの群落は1991年の台風により甚大な被害を受けた。障子ヶ岳では倒壊したヒノキは伐採、搬出されたが、現在でも多数生育している。一方、望雲台では台風前の3分の1程度のヒノキが残存するのみである。しかし、ヒノキの稚樹は点々と生育しており、長い年月の後には回復するものと考えられる。

所在地：1. 添田町英彦山；2. 添田町英彦山

(須田)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：A(福岡県)

スギ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1～2

指定：1. 小石原の行者杉 環境庁特定植物群落(F)，学術参考保護林；2. 若杉山のスギ林 環境庁特定植物群落(E・F・H)，太宰府県立自然公園第3種特別地域

群落の特徴：山岳信仰の対象とされた山域において、古くより植林され、はぐくまれてきた林分が、小石原村小石原、篠栗町若杉山などに生育している。これらの林分は植林後200～300年の年代を経て、いずれも巨木と言える姿に成長したものである。小石原村の林分は行者杉と呼ばれ、最も古いものでは推定樹齢700年(大王杉)である。

群落構成：高木層はスギの巨木で形成されており、胸高直径の最大値は225cm、林齢の高い林分では100～150cmの個体が多く、比較的若い林分でも50～70cmの個体で構成されている。樹高の最大値は55mで、35～45m程度の個体が多い。

亜高木層以下ではシロダモ、タブノキ、カゴノキ、アオキ、シキミ、ネズミモチ、ヒサカキ、ヤブツバ

キなど照葉樹林構成種が多く含まれている。高木層と亜高木層の間隔が広いと、林内への光の透過がよく、このため林床は一般に植被率が高くなっている。

保存状況：この林分は鎌倉時代より修験者によって植え継がれた林で、大木、古木が密集した林分として日本でも有数のものである。また、若杉山は修験道場として小石原とつながりがあり、山頂付近のスギは修験者の植樹によるものと考えられる。両者とも1991年の台風19号によりかなりの損壊を受けた。人的要因による破壊は特にはないと思われる。

所在地：1. 小石原村小石原；2. 篠栗町若杉

(冷川)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

イヌマキ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：織幡神社のイヌマキ林 環境庁特定植物群落(A・E・H)，玄海国定公園第1種特別地域，福岡県天然記念物(織幡神社のイヌマキ天然林)

群落の特徴：イヌマキ，シマモクセイ，ヤブニッケイが優勢な照葉高木林。イヌマキの胸高直径は20～60cm，群落高は内陸部の照葉高木林よりやや低く，約18mである。林冠はよく閉鎖し，林床にノシラン，キノクニスゲが密生する。織幡神社本殿の背後にあり，緩傾斜の深土適潤地に生じる。県内の神社境内には，列植されたとみなされるイヌマキの大径木が見られるが，当群落のイヌマキは，胸高直径にばらつきがあり散生しているので自生と考えられる。

群落構成：林冠にイヌマキ，シマモクセイ，ヤブニッケイ，シロダモ，タブノキ，ハマビワ，ホルトノキ，ヒメユズリハ，モッコク，モチノキ，サンゴジュ，ヤブツバキ，イヌビワなど，林床にマサキ，ト

ベラ，ハマビワ，アオキ，ネズミモチ，キツタ，テイカズラ，フウトウカズラ，ノシラン，ヤブラン，キノクニスゲ，ムサシアブミ，ツワブキ，オニヤブソテツ，ベニシダ，コバノカナワラビ，ホソバカナワラビなどが生育する。イヌマキが優占するタブームサシアブミ群集の一型である。

保存状況：風倒害はあるが，神社境内にあって人為的影響が少なく，保存状態はほぼ良好である。林内にイヌマキの稚樹や小径木が散見されるので，大規模な風害がない限り，今後ともイヌマキ優占群落として持続可能と考えられる。

所在地：玄海町鐘崎

(神野)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：C(福岡県)

サザンカ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：長岩山のサザンカ群落 環境庁特定植物群落(A・C・H)，筑後川県立自然公園第2種特別地域，福岡県天然記念物(長岩山のサザンカ自生地)

群落の特徴：園芸樹木として盛んに利用されるサザンカは，もともと常緑林内に生育する常緑低木で，九州地方が自生地北限に当たる。県内でも常緑林内に点在しているが，中でも耳納山地の稜線に近い通称長岩山の西向き斜面には，アカガシを主とする常緑広葉樹林下に多数生育しており，北限に近いサザンカの群生地として県の天然記念物に指定されている。

群落構成：高木層はアカガシを主としてウラジロガシ，スダジイなどからなり，樹高は12～15m，胸高直径は15～25cm，密度は1500～2500本/ha程度である。亜高木層はあまり発達せず，ヤブツバキやシキミが若干見られる程度である。低木層はサザンカが優占し，ヤブツバキ，ヒサカキ，シキミ，イスノキ，アセビ，クロキ，エゴノキなどが混生する。サザンカの樹高は3～5m，胸高直径は3～7cm，密度は3000

～6000本/ha程度である。草本層は一般に貧弱でシシガシラ，ベニシダ，コガクウツギ，フユイチゴ，ツルシキミ，ヤブコウジなどが若干見られる。

保存状況：従来一般にはあまり知られることはなかったが，林道ができて天然記念物に指定されると，一時盗掘が横行した。その後，地元の巡回などで今日では落ち着いているようである。

しかし，観光用にサザンカ以外の高木や低木が伐採されたり，近接の展望所にほかから持ち込んだサザンカを植栽したり，観光客による生育地の踏みつけなど，自然状態が完全に保たれているとはいえない部分もある。

所在地：久留米市草野町吉木

なお，岡垣町・宗像市境の戸田山や黒木町笠原にも小規模のサザンカ群落が見られる。

(猪上)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

タマミズキ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：なし
指定：なし 群落選定基準(E・H)

群落の特徴：矢部川と笠原川の合流点付近に位置する，城山(標高240m)の北西斜面のコジイ林内に分布する。相当数の個体が生育しており，県内他所では見られない。城山は「昭和の森公園」として利用され遊歩道などが整備されているが，タマミズキの生育する北西側斜面一帯は，やや急勾配のため自然状態が維持されている。胸高直径10～40cm，樹高15～20mの高木約50個体よりなるが，2～4本の株立ちのものも多く，伐採による再生林と思われる。赤い果実の残るタマミズキ群落の景観は，この地方の冬の風物詩といえる。

群落構成：高木層はコジイが優占する典型的な照葉樹林で，その中に樹高15～20mのタマミズキが抜き出て林立する。亜高木層はコジイ，タブノキ，リョウブ，サカキ，ヤブツバキなど，低木層はコジイ，アラカシ，シイモチ，ヒサカキ，ヤブツバキなどに

よって構成されている。草本層はやや乾燥気味の土質と，陰樹林下の低い照度のため貧弱で，オオカグマ，コジイ，ウラジロなど10種程度である。コジイの更新は見られるが，タマミズキは高木層以外に出現せず更新が見られない。

保存状況：城山は周囲をスギ・ヒノキ植林，モウソウチク林などに囲まれている。山上部はサクラ，モミジ，サザンカなどを植栽し公園とされているが，タマミズキ群落のある北西側の笠原川沿いの斜面は，再生シイ林として自然状態が維持されている。タマミズキの更新にはコジイの適度な伐採による維持管理が必要であるが，一方では公園整備，伐採などの人為的要因による群落の破壊が危惧される。

所在地：黒木町下木屋

(宝理)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：A(福岡県)

ヤマザクラ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：なし
指定：石割岳のヤマザクラ群落(E・H)，筑後川県立自然公園第2種特別地域，星野村天然記念物

群落立地：ヤマザクラは暖帯域の日当たりのよい林内や林縁に生育するが，普通点在し群生することはまれである。星野村の石割岳の，輝石安山岩よりなる北側急斜面(標高700～900m)の谷沿いには大小の転石が折り重なっている。そこにはヤマザクラやケヤキの密度の高い落葉広葉樹林が成立し，周辺のスギ林と好対照をなしている。地元では石割岳のヤマザクラとして知られ，開花期には多数の見物客が訪れる観光地となっている。

群落構成：高木層はヤマザクラやケヤキを主体にクマノミズキ，サワグルミ，ツクシトネリコ，エンコウカエデ，アオハダ，ハリギリ，イイギリなどが見られる。樹高は14～20m，胸高直径は15～50cm，密度は300～500本/haである。亜高木層はケヤキ，リョウブ，アオハダ，シラキ，クマシデ，クマノミズキ，エゾエノキなど，低木層上部はリョウブ，ハマクサギ，シラキ，イロハモミジ，アブラチャンなど，下部はサイゴクイボタが優占し，イヌツゲ，ハナイ

カダ，シラキ，ヤマシグレなどが多い。草本層はミヤマクマワラビが優占し，イワガラミ，ツルアジサイ，ツヤナシイノデ，ジュウモンジシダなどが多い。

この林分はシオジを欠くがサワグルミ，アブラチャン，ハナイカダ，サイゴクイボタ，ミヤマクマワラビ，ツヤナシイノデなどの常在度が高く，シオジーミヤマクマワラビ群集または近縁の群落と思われる。

保存状況：ここは急傾斜の転石地のため人工林となることもなく，天然林のまま放置されてきた。現在は観光資源として村では天然記念物に指定して保存している。隣接の林分に種々の広葉樹が植栽されているが，その中に外部からのヤマザクラが導入されているため，将来的には遺伝子の汚染が考えられる。また林内には，ほとんどヤマザクラの稚樹が発生していないうえに，現在の上木も一部に枯損・衰退が見られるので更新上からも課題が残る。

所在地：星野村尾払

(猪上)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：C(福岡県)

クロモジ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：3

指定：篠栗町呑山のクロモジ林 環境庁特定植物群落(C・H)，太宰府県立自然公園普通地域

群落の特徴：クロモジは従来北海道，本州，四国に分布し，山口県が西南限自生地とされてきた。しかし，1970年に若宮町菅岳に接する篠栗町呑山の北西斜面のアカマツ林内や落葉林内に自生しているのが発見され，今日でも九州地方唯一の産地，しかも西南限の自生地となっている。コナラなどの落葉林内に低木として生育するが，地史的・植物地理学的に重要な群落である。

群落構成：当初アカマツ林およびクヌギ・コナラなど落葉広葉樹林の下層植生として見られたが，その後アカマツは枯損し，クヌギ，コナラは伐採された。現在はその後成立した樹高8～10m程度のコナラ，カラスザンショウ，アカメガシワ，ノグルミなどの林の下層植生のひとつとして生育している。クロモジの樹高は2～4m程度である。その他の低木にはクロキ，ヒサカキ，イヌツゲ，ネズミモチ，カナク

ギノキ，コバノガマズミなどが多く，テイカズラ，サネカズラ，スイカズラ，アケビなどつる植物も多く繁茂している。林床は明るく草本層にはツルシキミ，フユイチゴ，チヂミザサ，ヒメバライチゴ，ヤマハッカなどのほか多数の植物が見られる。

保存状況：シイタケ原木としてクヌギ，コナラ，ノグルミなどを利用している林であり，十数年ごとに伐採・萌芽再生を繰り返している。特別な保護措置はないが，慣習的な施業に適合してクロモジも生育を続けている。今後もこのサイクルが続けばクロモジも生育すると思われるが，放置されたままだと低木として存在するタブノキ，ヤブニッケイ，クロキ，ネズミモチ，シロダモなどの常緑樹林に移行し，クロモジは次第に衰退していくものと思われる。

所在地：篠栗町萩尾

(猪上)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

マルバニッケイ群落 ◆

RDB植物群落委員会カテゴリー：なし

指定：なし 群落選定基準(A・D・H)

群落の特徴：マルバニッケイは海岸の崖地に生える常緑小高木で，県内では大島にのみ分布し，ここが北限自生地となっている。本種の優占する海岸風衝低木林は，屋久島や長崎県男女群島などの海岸断崖に分布しているが，大島においても北側海岸の断崖約1kmの範囲にわたって見られる。比較的緩やかな斜面では群落高7m程度に達する。また急傾斜地では，群落高3～4m程度でほかの樹木をほとんど混じえない純林状の林分も見られる。

群落構成：マルバニッケイのほか，ハマビワ，ハマヒサカキ，マサキ，トベラなどの樹木を混生する。また林床には，ツワブキ，ホソバワダン，オニヤブソテツなどが見られる。林床の構成種は斜面角度や露岩率などで異なる傾向があり，斜面角度の大きい岩石地では，ダルマガク，ハマボッス，ハマナデシ

コなどの海岸岩角地に生育する草本が出現する。斜面角度の緩やかな所ではノシランが比較的高密度で出現する。

保存状況：群落全体の保存状況はおおむね良好である。本群落は，北限群落として学術的にも貴重であり，また海岸断崖の自然植生として景観的にも優れている。現在，群落に隣接して島循環道路が建設中で，一部ではあるが測量のための伐採があった。道路の開通により，群落境界付近での日照，風通しなど各種の環境変化が予測される。また，道路法面から林床への土砂の流入防止など，今後群落保全のための施策が望まれる。

所在地：大島村

(須田)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：A(福岡県)

ハマボウ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：雷山川下流のハマボウ群落 環境庁特定植物群落(B・D・G・H)，地域象徴植物(前原市，志摩町)

群落の特徴：ハマボウは河口や海岸の砂泥地に生育する植物で，県内では玄界灘および周防灘の各地に点在している。そのなかで，前原市と志摩町の境界に位置する雷山川(泉川)の河口域には，かなりまとまった群生地があり，九州最大のハマボウ群落といわれている。この群生地は，雷山川支流の初川合流部上方から河口に向かって両岸約1kmの範囲に見られ，また一部は初川河岸にも広がっている。この群落の更に下流側はコンクリート護岸となっており，ハマボウは見られない。

群落構成：雷山川のハマボウ群落の立地は泥質の塩沼地であり，その前面にヨシ群落が発達している所も見られる。ハマボウは樹高2～3mに達し，根元より枝を多数叢生しており，樹冠の連続した純群落を形成している。群落内部には，水際側からヨシが侵入しているが，それ以外の植物はほとんど見られな

い。土手側の上部には，アカメガシワ，エノキ，ネムノキ，アキグミなどの低木が散生し，ハマボウに隣接して生育している。

保存状況：この群落はかなりまとまった面積があり，保存状況も良好である。ハマボウは，福岡県環境保全に関する条例に基づいて，1997年に前原市および志摩町の地域象徴植物に選定されており，貴重な存在として，また花の美しさから地域住民にも親しまれている。県内のハマボウ群落は，海岸域の開発や護岸などにより次第に消滅しており，健全な姿で残る本群落は貴重である。

所在地：前原市前原，志摩町小富士

なお，岡垣町の汐入川河口，北九州市の洞海湾岸などにも小規模な群落が見られる。

(須田)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

ダルマガク群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：1. 彦山海岸の断崖風衝地群落 環境庁特定植物群落(D)，玄海国定公園第3種特別地域；2. 芥屋のハマヒサカキ低木林を含む海岸斜面の植物群落(ダルマガク群落) 環境庁特定植物群落(D)，玄海国定公園第1種特別地域

群落の特徴：ダルマガクは海岸岩角地に生育する多年生草本で，分布域は朝鮮海峡をはさむ両岸地域に限られている。県内では，玄界灘の本土側沿岸や島嶼に本種が優占する群落が点々と見られる。これらのうち志摩町の彦山海岸(通称，幸田浜)や芥屋付近では比較的まとまった群落が見られる。この群落は，ハマビワまたはハマヒサカキが優占する海岸風衝低木林の更に前面に成立している。海の影響を強く受けた草本群落で，群落高は最大で50cm程度である。なお，ダルマガク群落を欠くほかは本群落と類似の種組成を持つホソバワダン群落も，玄界灘の海岸断崖各地に見られる。

群落構成：彦山海岸では，ダルマガクに次いでホソバワダンが高密度で出現する。ツワブキ，ハマベノギク，オニヤブソテツなどもやや高密度で出現し，ハマナデシコ，ハマエンドウ，タイトゴメなどの海

岸植物を混生する。芥屋付近では，転石の多い海岸緩斜面や芥屋大門の断崖壁面に見られる。前者では，彦山海岸とほぼ同様の種組成であるが，部分的にハマゴウを混生している。また，後者は急傾斜地であるため，他種をほとんど混生していない。

保存状況：ダルマガク群落は開発の対象となりにくい断崖やその周辺に成立している。過去には道路建設に伴い消滅した地域もあったが，現在残されている群落については，人の立ち入りによる踏みつけや採取が部分的に見られるほかは，保存状況は各地ともほぼ良好である。

所在地：1. 志摩町野北；2. 志摩町芥屋

このほかに，大島，相島，沖ノ島などの海岸断崖にも見られる。

(須田)

カテゴリー：IV，群落評価：A(福岡県)

シオジ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：英彦山の自然林(シオジ群落) 環境庁特定植物群落(A・G・H)，耶馬日田英彦山国定公園第1種・第2種・第3種特別地域

群落の特徴：英彦山は標高約1000mまでは凝灰角礫岩で，その上部に安山岩質熔岩が重なっている。谷間をはじめ山麓部には上部から崩落した安山岩が積み重なった状態になっており，そこに原生状態のシオジ林がある。林内は湿潤で，岩石にはコケ類が厚く生育している。英彦山には2カ所面積の広いシオジ林がある。一つは北岳から中岳にかけての北側斜面の標高850mから1000mにかけての範囲で，その間には4筋の大きな谷がある。もう一つの林は岳滅鬼山の北側斜面にある。

群落構成：シオジの高木は樹高約30m，胸高直径90cmにも達する。シオジに非常によく似たサワグルミのほか，イタヤカエデ，コハウチワカエデ，ミズメなどを混じえる。亜高木層や低木層にはヒナウチワカエデ，チドリノキ，ツリバナ，ヒコサンヒメシヤラ，ウスゲクロモジ，ハナイカダなど，草本層にはミヤマクマワラビなどが生育し，シオジミヤマク

マワラビ群集に同定される。岳滅鬼山は英彦山と同様にシオジの大木が茂っているが，ここには岩石の堆積はなく，またミヤマクマワラビも生育していない。

県内他所には優れたシオジ林は存在しない。犬ヶ岳山系では，笈吊岩から犬ヶ岳にかけての稜線下にシオジが散在しているが，シオジ林というほどのものではない。福智山の北西斜面にも小さなシオジ群落があるがまだ木が若い。脊振山にも小群落がある。

保存状況：英彦山の2カ所のシオジ林はいずれも原生的な林で範囲も広い。樹下にはワチガイソウ，ヤマシャクヤク，コミヤマカタバミ，ヤマウツボ，タマガワホトトギスなど数多くの希少植物が生育している。学術的にも価値の高い群落であり，現状のまま保存されることが望まれる。

所在地：添田町英彦山

(熊谷)

カテゴリー：IV，群落評価：B(福岡県)

ミズナラ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：1. 鷹ノ巣山のミズナラ林 環境庁特定植物群落(A・G・H)，耶馬日田英彦山国定公園特別保護地区・第3種特別地域；2. 犬ヶ岳の自然林(ミズナラ群落) 環境庁特定植物群落(E)，耶馬日田英彦山国定公園第2種特別地域

群落の特徴：鷹ノ巣山は標式的なビュート地形で，西から東へ一ノ岳，二ノ岳，三ノ岳と並ぶ。一ノ岳では標高870～930m付近を崖がとりまき，崖の上部がミズナラ群落である。樹高は山頂部で10m，斜面で10～15mの比較的若い林である。犬ヶ岳山系では一ノ岳山頂付近から主峰の間，一ノ岳から求菩提山への稜線部，主峰頂上付近などに見られる。ほとんどの部分でブナが混じり，ミズナラブナ群落となっている。かつての優れたブナ林の代償植生で，この付近の林は大正初期に伐採されたあと放置されて今日に至ったものと推測される。

群落構成：鷹ノ巣山では高木層の優占種はミズナラで，ブナが続き，ほかにコハウチワカエデ，ウリハダカエデ，リョウブ，タカノツメ，イヌシデなどがあり，亜高木層にはタンナサワフタギ，アオハダ，

シラキ，ヤマコウバシなど，低木層にはサイゴクイボタ，ネジキ，ウスゲクロモジ，オトコヨウヅメ，コバノミツバツツジなど，林床はスズタケが密生する。斜面にはスズタケを全く伴わない部分がある。二ノ岳や三ノ岳ではツガやゴヨウマツが混ざり，樹下にツクシシャクナゲの生えた所もある。

犬ヶ岳では，高木層はミズナラ，ブナ，アカシデ，クマシデなど，亜高木層はベニドウダン，イヌシデ，ネジキ，タンナサワフタギ，コミネカエデ，コハウチワカエデなど，低木層はオトコヨウヅメ，コバノミツバツツジなどで，林床にはクマイザサが密生する。

保存状況：比較的よい。

所在地：1. 添田町英彦山；2. 豊前市鳥井畑ほか

(熊谷)

カテゴリー：IV，群落評価：A(福岡県)

モミ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：なし

指定：1. 英彦山の自然林(モミ群落) 環境庁特定植物群落(A)，耶馬日田英彦山国定公園特別保護地区；2. 三郡・宝満山の自然林(モミ群落) 環境庁特定植物群落(A)，太宰府県立自然公園第1種特別地域；3. 屏山のモミ群落(G)，筑後川県立自然公園第3種特別地域

群落の特徴：モミ群落は、英彦山では鬼杉のある谷間から東方の斜面で標高770～950mに、屏山は850m付近、宝満山では仏頂山にかけての680～850mに分布し、照葉樹林帯上部から夏緑樹林帯下部にかけて形成されている。したがって、林内には2つの群系の要素の植物が混ざっている。屏山は十数個体の小群落で、ほかとは構成種の上で比較にならない。

英彦山ではモミとツガが混生している。一般にモミは土壌の厚い安定した土地に生え、ツガは土壌の少ない乾燥した岩上に生える性質があり、英彦山では複雑な岩礫質土壌に立地することを示している。県内のモミ群落はモミ、カヤ、アカガシ、シキミ、ハイノキ、キッコウハグマなどを伴っていることから、モミ・シキミ群集に同定される。モミはどこも胸高直径が65cmを越える大きな個体を含んでいる。

群落構成：3カ所ともシキミとハイノキの被度が高く、アカガシの常在度が高い。照葉樹林要素ではアカガシ、ウラジロガシ、シキミ、ヤブツバキ、シロダモ、ヒサカキなど、夏緑樹林要素ではブナ、コハウチワカエデ、シラキ、ツリバナ、カナクギノキなどが共通にみられるが、英彦山では標高が高いだけに夏緑樹林要素が、宝満山では照葉樹林要素が、種類・被度・常在度などの点で強くなっている。

保存状況：どの箇所も1991年の台風19号により大被害を受けた。中でも英彦山が最もひどく、倒木のほか立ち枯れが続出し、白骨化が目立つ。人為的な破壊は見られない。自然回復を待つしかないであろう。

所在地：1. 添田町英彦山；2. 太宰府市北谷，筑紫野市本道寺；3. 甘木市江川

(熊谷)

カテゴリー：IV，群落評価：B(福岡県)

イワシデ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：3

指定：1. 平尾台の石灰岩台地植物群落(イワシデ群落) 環境庁特定植物群落(B・D・H)，北九州国定公園特別保護地区・第1種・第2種・第3種特別地域，筑豊県立自然公園普通地域；2. 香春岳のイワシデ林 環境庁特定植物群落(A・B・D・G・H)，筑豊県立自然公園普通地域；3. 竜ヶ鼻の自然林(イワシデ群落) 環境庁特定植物群落(B・D・H)，筑豊県立自然公園普通地域；4. 方城町広谷のイワシデ群落(B・D・H) 筑豊県立自然公園第1種特別地域

群落の特徴：イワシデは石灰岩上または岩の割れ目に生育し、普通の植物が生育できない立地に群落を形成している。生育条件のよい所では単生し垂高木になるが、厳しい立地では叢生し低木である。

群落構成：イワシデ林はオオコマユミ、イブキシモツケ、イワツクバネウツギ、ヤマブキ、チョウジガマズミなどを伴っており、イワシデ・イワツクバネウツギ群集に同定される。普通はイワシデに次いでオオコマユミの被度が高い。群落内のイワシデ、イワツクバネウツギ、イブキシモツケ、チョウジガマズミ、コバノチョウセンエノキ、キビノクロウメモドキ、モモ、ヤマブキなどは好石灰植物、岩角地植物であると同時に大陸系の遺存植物である。更に好石灰植物として、ツゲ、オニシバリ、ビワ、コシヨ

ウノキ、バイカウツギ、ヒメウツギ、シロバナハンショウヅル、ヤマカシユウ、キンモウワラビ、ツルデンダ、クモノスダなどが生育している。

保存状況：イワシデ群落の規模は、香春岳、竜ヶ鼻、平尾台、方城町広谷の順となる。しかし、広谷の石灰岩地は1haと範囲は狭いが、香春岳のイワシデ群落を凝縮したような形になっていて素晴らしく、筑豊県立自然公園第1種特別地域に指定されている。イワシデを含め、群落内には希少植物が数多く生育し、非常に貴重な群落である。

所在地：1. 北九州市小倉南区新道寺ほか；2. 香春町香春；3. 香春町採銅所；4. 方城町伊方

(熊谷)

カテゴリー：IV，群落評価：A(福岡県)

ツゲ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：古処山のツゲ林 環境庁特定植物群落(A・B・D・H)，筑後川県立自然公園第1種・第2種特別地域，特別天然記念物(古処山ツゲ原始林)，福岡県天然記念物(秋月のツゲ原始林)

群落の特徴：古処山(標高860m)は、甘木市の北東部、嘉穂郡との境界線となる古処山地の西端に位置し、山頂域が結晶質石灰岩からなり、福岡県内で唯一のツゲの天然林ならびに人工林が分布する。

天然林は、稚樹から樹齢300年前後で樹高3~9m、胸高直径10~20cmに達するものがあり、これらが標高700m前後の石灰岩塊地から山頂の露岩地一帯にかけて点在あるいは群落状に天然分布する。

人工林は1905~1912年、古処山の南東斜面の甘木市側の標高700m前後の山腹に2.8ha植栽されたもので、現在、樹齢87~94年生のツゲ林となっている。樹形は樹高3~8m、胸高直径5~18cmと、やや不ぞろいであるが県内外にほとんど例をみないツゲの人工造林地として貴重な存在である。

群落構成：天然林の林相は、高木層がブナ、ケヤキ、アカシデ、クマシデ、リョウブ、コハウチワカエデ、アカガシ、亜高木~低木層はリョウブ、ケクロモジ、

ヤマボウシ、イロハモミジ、イボタノキ、ハイノキ、ハナイカダ、ツルシキミ、コマユミ、アブラチャン、ハマクサギなどの暖温帯林構成種からなる。天然生ツゲは、この林分中の土壌層または岩塊に付着したコケ層から発芽し、稚樹や低~中木層として生育している。また露岩地では優占種となって自生混交している。草本層の植被率は低い。

人工林はやや樹高のバラツキがあるが、ほかの樹種の混交がほとんどない一斉林で、林床植生の植被率がすこぶる低い。

保存状況：天然林の中には登山路もあるが、ツゲは人為的その他の災害はほとんどなく、更新稚樹が発生し天然林の様相が保たれている。

人工林は、保育管理のため林内整理、害虫防除などが行われてきたため、現在は樹冠が閉鎖し林床植被率がすこぶる低い一斉林分となっている。

所在地：甘木市野鳥、嘉穂町千手 (斉城)

カテゴリー：IV，群落評価：B(福岡県)

ムクロジ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：1. 山田市白馬山のムクロジ林 環境庁特定植物群落(B・H)；2. 城山の自然林(ムクロジ群落) 環境庁特定植物群落(B)

群落の特徴：高木層にムクロジが優占する谷地形上の夏緑高木林。ムクロジは比較的まれな植物で、県内での群生地は、白馬山(大法山)中腹、城山南面に限られる。いずれも土壌は薄く、地表に大小の転石が累積している。母岩が露出する生育地もある。このことから、ムクロジ群落は照葉樹林帯下部における微地形を反映した樹林とみなされる。ムクロジの胸高直径は30~80cm、群落高は25m前後、夏季に林冠が閉鎖する。新緑や黄葉の季節では、その際だった林冠の色調で周囲の照葉樹林から明瞭に区別される。

群落構成：林冠にムクロジが優占し、エノキ、ムクノキ、ハゼノキなどの夏緑樹、タブノキ、ヤブニッケイ、シロダモ、カゴノキ、バリバリノキ、ナナミノキ、アラカシなどの照葉樹を低被度で混じえるが、シイノキはほとんど見られない。低木層にアオキが密生する。

種組成は白馬山、城山とも似ているが、一部の出現種と地表の様子が異なる。白馬山では転石が集積した緩傾斜の谷に見られ、ホソバタブ、シイモチ、イワヒトデ、ウワバミソウなどが生じ、転石にコケ類が密生する。城山では母岩が露出し表土の薄い急傾斜の谷に発達し、カヤ、イロハモミジ、イヌシデ、ノグルミ、ウラジロガシ、ナチシダなどが見られ、転石にマメヅタが頻出する。

保存状況：いずれも人為的影響が少なく、保存状態は良好である。表土の薄い城山の群落では風倒害が生じることもある。ムクロジはよく結実し、稚樹を含む後継樹もいくらか見られるので、大規模な風倒害がない限り、今後ともムクロジ優占林として存続すると考えられる。

所在地：1. 山田市下山田；2. 宗像市石丸 (神野)

カテゴリー：IV，群落評価：B(福岡県)

ゲンカイツツジ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2～3

指定：1. 英彦山のゲンカイツツジ群落 環境庁特定植物群落(D・E)，耶馬日田英彦山国定公園特別保護地区・第1種・第2種特別地域；2. 岩屋のゲンカイツツジ群落(D・E)，耶馬日田英彦山国定公園第2種特別地域，福岡県天然記念物(岩屋のげんかいつつじ)；3. 上野峡のゲンカイツツジ群落 環境庁特定植物群落(B・D・H)，北九州国定公園第2種特別地域

群落の特徴：ゲンカイツツジは規模の大きな岩場に生育する高さ1mあまりの小低木である。高木や亜高木のまばらな，または欠く日当たりのよい岩上に生える岩角地植物の一種である。大陸系の植物で，3月下旬から4月上旬，葉の展開に先駆けてピンク色の花を開く。英彦山地(英彦山を中心として南方の宝珠山村岩屋にかけて，北方は犬ヶ岳・経読岳・雁股山などの岩角地)と福智山地の一部(上野峡)に分布する。英彦山地は凝灰角礫岩の岩場，福智山地は花崗岩の岩場である。

群落構成：英彦山では，玉屋神社一帯，鬼杉付近，望雲台，深倉峡，鷹ノ巣山の二ノ岳・三ノ岳などに多い。岩上には所によって異なるが，アカマツ，ツガ，ヒノキ，ミズナラなどの亜高木が生えている所もあれば，低木以下の植物がまばらに生えている所もある。玉屋神社付近の岩場ではゲンカイツツジと

ともに高さ2m以下のアカマツ，イソノキ，ナンキンナナカマド，ネジキ，タカノツメ，ナツハゼ，キハギ，ヤマツツジなどの小低木とイワギボウシ，イワヒバ，シノブ，ツタ，ツメレンゲ，セッコクなどの草本が生えている。上野峡では標高250mの白糸の滝から標高470mまで東方に徐々に高度を上げながら約500mの間に点在する。高さ6mあまりのアカマツの林で，樹下にはコバノミツバツツジ，コナラ，リョウブ，シャシャンボ，ウラジロなどが生えている。宝珠山の岩屋は岩屋神社境内の岩山にある。

保存状況：英彦山地では分布範囲が広く，個体数も非常に多い。岩屋では県の天然記念物に指定され保護されている。

所在地：1. 添田町英彦山；2. 宝珠山村岩屋；3. 赤池町上野

(熊谷)

カテゴリー：IV，群落評価：C(福岡県)

ミヤコザサ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：1. 脊振山のミヤコザサ群落(E・H)，脊振雷山県立自然公園第1種・第2種特別地域；2. 馬見山のミヤコザサ群落(E・H)，筑後川県立自然公園普通地域

群落の特徴：脊振山地および古処山地の夏緑樹林帯にはミヤコザサが生育している。また同じ分類群に属するクマイザサが英彦山地と，福智山地の一部に分布している。両者は桿の途中から分枝するか否かと，節が膨らむか否かで区別できる。また冬季に積雪の深い箇所ではクマイザサが生育し，稜線など吹きさらしの箇所や積雪の少ない地域ではミヤコザサが多くなる。

群落構成：脊振山(標高1055m)から椎原峠へかけての稜線から斜面上部や，雷山(983m)から井原山(955m)へかけての稜線一帯のミヤコザサは純群落として草原状を呈するほか，コバノミツバツツジ，リョウブ，ネジキなど陽地性の亜高木ないしは低木林内の林床に密生している。いずれも夏緑樹林帯にあって風衝地か，貧栄養で土壌の浅い地帯で見られる草

原である。馬見山(978m)では山頂から北へ派生する尾根があり，その付け根の平坦部にミヤコザサは分布している。脊振山と同様にコックバネウツギ，イヌツゲ，コガクウツギなどを混じえたササ群落となっている。

クマイザサは，英彦山から犬ヶ岳にかけての稜線部のブナ群落の下層植生として分布するほか，福智山の山頂付近で草原を形成している。

保存状況：尾根道に沿って分布しているが，密生しているため登山者の踏み入れも少ない。また地形的にも崩落なども少なく，保存状態はよい。

所在地：1. 福岡市早良区椎原，前原市雷山ほか；2. 嘉穂町馬見

(神崎)

カテゴリー：IV，群落評価：A(福岡県)

クスノキ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：1. 立花山のクスノキ林 環境庁特定植物群落(F・H)，玄海国定公園第1種特別地域，特別天然記念物(立花山クスノキ原始林) 2. 船小屋のクスノキ林 環境庁特定植物群落(E・F)，矢部川県立自然公園普通地域，国天然記念物(新船小屋のクスノキ林)

群落の特徴：藩政期，現福岡県内の諸藩は有用樹クスノキの保護育成策(禁伐，植栽など)をとった。立花山については確実な記録は見あたらないが，藩政期に植栽されたものと考えられている。船小屋の林分は柳河藩によって矢部川河川敷に造成された。それらが時を経て成林し，うっそうたる樹林となった。県内の多くの寺社境内にはクスノキの樹叢があるが，それらは亜高木層以下が伐開されており，いずれも樹林とは言い難いものである。

群落構成：立花山と船小屋の群落は高木層にクスノキが優占する点では同じであるが，立地の差異を反映して，群落の外観や種組成は異なる。前者は山地斜面の深土適潤地に成立し，クスノキの樹冠が大きく林内は暗い。群落高はおおむね25～30mである。高木・亜高木層にクスノキ，ヤブニッケイ，シロダモ，タブノキ，カゴノキ，アラカシなどを混じえ，低木層はアオキが優占し，ヒサカキ，ヤブツバキ，

イヌビワなどが生じ，草本層にイズセンリョウ，キヅタ，ナガバジャノヒゲ，ヤブラン，ヤブミョウガ，ツワブキ，ベニシダなどが見られる。

後者は平坦な河川敷の多礫質深土適潤地にあり，クスノキの樹冠はやや小さく林内は明るい。群落高は約25mである。高木・亜高木層にクスノキ，エノキ，ムクノキ，メダケ，マダケ，シュロ，イヌビワ，ヤブツバキなどを混じえ，低木層にネザサが優占し，草本層にテイカカズラ，ヤブラン，ヤブジラミ，ホシダ，クリハランなどが見られる。

保存状況：立花山のクスノキ林は人為的影響が少なく，保存状態は良好である。船小屋の林分は林床植物は多いが，人の踏みつけで多少荒れている。しかし，管理が行き届き保存状態は良好である。

所在地：1. 福岡市東区下原，新宮町立花口ほか，久山町山田；2. 瀬高町長田

(神野)

カテゴリー：IV，群落評価：B(福岡県)

エノキ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：立花山のエノキ群落(F・H)，玄海国定公園第1種特別地域，特別天然記念物(立花山クスノキ原始林)

群落の特徴：高木層に夏緑樹のエノキが優占し，照葉樹のタブノキ，クスノキなどを伴う夏緑・照葉混交高木林。別記「立花山の自然林」に含まれる「クスノキ群落」の一型で，立花山・松尾山の鞍部に見られる小規模な群落である。

エノキの胸高直径は40～70cm，群落高は30mで，周囲のクスノキ群落に匹敵する高さをもつ。林冠はよく閉鎖し林内は暗く，草本層は疎開している。この群落も県内低山の谷に生じるエノキやムクノキの群落と同様，高木層にタブノキを混じえ，シイノキがほとんどなく，低木層にアオキが密生する。

このエノキ群落に立地，相観，種組成がよく似た林分が，笠置山(飯塚市・宮田町境)の尾根沿いにあ

る。

群落構成：高木層にエノキ，ムクノキ，タブノキ，クスノキ，ヤブニッケイ，カゴノキなど，亜高木層にヤブツバキ，イヌビワなど，低木層にアオキ，草本層にカラタチバナ，イズセンリョウ，キジョラン，キヅタ，テイカカズラ，フウトウカズラ，ヤブラン，ツワブキ，ヤマアイ，ベニシダなどが見られる。林床にエノキやムクノキの幼木はない。

保存状況：人為的影響は少なく，保存状態は良好である。

所在地：福岡市東区下原

(神野)

カテゴリー：IV，群落評価：C(福岡県)

キンメイモウソウチク群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：久留米市高良山のキンメイモウソウチク林 環境庁特定植物群落(H)，筑後川県立自然公園普通地域，国天然記念物(高良山のキンメイモウソウチク林)

群落の特徴：キンメイモウソウチクは，モウソウチクの突然変異により黄白色の稈に緑色の縞の入ったものであり，和風庭園の緑化資材としても賞用されている。久留米市御井町高良山の西側中腹の谷間にはその群生地があり，全国的にも珍しいので1974年に国の天然記念物に指定されている。

群落構成：高木層はキンメイモウソウチクだけからなり，樹高は14～16m，稈の直径は10～16cm，現在の密度は3500～4000本/ha程度である。

低木は定期的に除去され，ほとんど見られない。草本層はイワガネとキミズが優占し，チヂミザサ，テイカカズラ，ヤマアイ，フモトシダなどが多く，タブノキ，イチイガシ，ケヤキなどの雑樹も多い。

保存状況：この群生地は高良大社所有で，耳納スカイラインのすぐそばにある。天然記念物に指定され，周囲には柵が設けられ，通常は施錠され一般の立ち入りもない。

以前は放置されて密度過多になり，竹林が荒廃しかけていたが，現在では古竹や低木の伐採除去などによる適正な密度管理が行われており，健全な状態が保たれている。今後も現在の施業が続けられれば，群落は維持されるものと思われる。時折隣接する車道からゴミの投棄が見られる。

所在地：久留米市御井町

(猪上)

カテゴリー：IV，群落評価：C(福岡県)

マテバシイ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1～2

指定：1. 志賀島のマテバシイ林 環境庁特定植物群落(E)，玄海国定公園第2種・第3種特別地域；2. 鴻巣山のマテバシイ林 環境庁特定植物群落(E)，鴻巣山緑地保全地区；3. 姫島のマテバシイ林 環境庁特定植物群落(E・H)，玄海国定公園第2種特別地域

群落の特徴：マテバシイ群落は，対馬海流の影響を受ける，北部九州沿岸および島嶼部に特徴的に分布する照葉樹林である。県内では玄界灘に面した地方に断続的に分布している。

マテバシイは萌芽性が強く，成長が速いことから，これらの地方では薪炭林として利用されてきた。そのためほとんどの群落は20～30年生の二次林であるが，鴻巣山や姫島山頂付近には胸高直径30～40cm程度に成長した林分も見られる。

群落構成：高木層はマテバシイが優占し，タブノキ，シロダモ，ヤブニッケイ，ハゼノキなどを混じえる。亜高木層以下ではイヌビワ，ハマビワ，ヤブツバキ，マサキ，トベラ，ハクサンボク，ムサシアブミなど暖地海岸性の種を多く含んでいる。

若い林分では，しばしば強く萌芽したマテバシイ

が純林状態を呈し，このような林分では林床植生は貧弱である。

保存状況：志賀島や糸島半島沿岸部では，かつては広範囲でマテバシイ群落が見られたが，薪炭利用が無くなった今日，かなりの部分が柑橘類を中心とした果樹園に置き換えられている。現在，良好な群落として残されているのは，ほとんどが玄海国定公園の特別地域指定がなされている範囲である。これ以外の林分については，なかば公園化されている鴻巣山を除き，開発行為を受ける可能性がある。

所在地：1. 福岡市東区志賀島，勝馬；2. 福岡市南区平和，中央区小笹；3. 志摩町姫島

その他，主に遠賀川河口以西の玄界灘に面する山地や丘陵，島嶼部に点在する。

(冷川)

カテゴリー：IV，群落評価：B(福岡県)

トベラ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1～2

指定：1. 部崎のトベラ低木林 環境庁特定植物群落(A)；2. 芦屋海岸のトベラ低木林 環境庁特定植物群落(D)，玄海国定公園第2種特別地域

群落の特徴：上層にトベラやマサキが密集する海岸照葉低木林。海岸山地の斜面下部や砂丘台地に生じる。群落は高さ約1～5m，2～3層に分化し，風上側で著しい風衝形を呈する。土壌はハマビワ群落よりも薄く乾燥気味である。上記群落は部崎灯台付近の急斜面，若松海岸東端の砂丘台地で発達している。これ以外にも，島嶼や県北海岸山地の斜面下部に大小のトベラ群落 distributes。類似群落に別記ハマビワ群落，ハマヒサカキ群落がある。

群落構成：上層はトベラ，マサキ，シャリンバイ，ヤブニッケイ，ヤブツバキ，ネズミモチ，ハマヒサカキなどの照葉樹，アカメガシワ，エノキ，マルバ

グミ，ノブドウ，サルトリイバラなどの夏緑樹やつる植物などで構成される。下層は一般に疎開し，キヅタ，テイカカズラ，ヤブラン，ノシラン，ツワブキ，オニヤブソテツなどが散生する。種組成上，類似群落のハマヒサカキ群落とともに，トベラマサキ群集とされる。

保存状況：上記群落は人為的影響がほとんどなく，保存状態は良好である。ほかの生育地では，開発行為があれば立地も群落も失われる可能性がある。

所在地：1. 北九州市門司区白野江；2. 北九州市若松区有毛

(神野)

カテゴリー：IV，群落評価：A(福岡県)

ハマビワ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：1. 鐘崎のハマビワ低木林 環境庁特定植物群落(D・H)，玄海国定公園第1種特別地域；2. 沖ノ島の自然林(ハマビワ群落) 環境庁特定植物群落(D・H)，福岡県自然環境保全地域，国天然記念物(沖ノ島原始林)

群落の特徴：上層にハマビワ，マサキ，トベラなどが優占する海岸照葉低木林。海岸山地の斜面下部に生じる。類似群落に別記トベラ群落，ハマヒサカキ群落がある。いずれも群落幅が小さく，群落高，階層分化，外観は主風の強さに応じて変化する。当群落は，高さ約2～7m，2～3層に分化する。群落の表面は，風上側では刈り込まれたように平滑，風下側では優占種本来の樹冠形を残す。表土はトベラ群落，ハマヒサカキ群落よりも深く適潤である。

鐘崎の群落は織幡神社後背丘陵の風衝側(東斜面)一帯にあり，尾根部で風背側(西斜面)の照葉高木林につながる。沖ノ島の群落は海岸沿いに島をほぼ一周し，下方で海岸風衝草原に，上方でタブ林に接する。

これ以外にも，島嶼や県北海岸山地の斜面下部に大小のハマビワ群落が見られる。

群落構成：上・中層に優占種のハマビワ，トベラ，マサキのほか，ヤブニッケイ，クロキ，ヒメユズリハ，ヤブツバキ，ネズミモチ，アオキ，ヤツデなどの照葉樹，マルバグミ，ノブドウ，サルトリイバラなどのつる植物を伴う。下層は一般に植被率が高く，キヅタ，テイカカズラ，フウトウカズラ，ヤブラン，ノシラン，ムサシアブミ，ヒゲスゲ，ツワブキ，オニヤブソテツなどが密生する。種組成上，ハマビワオニヤブソテツ群集とされる。

保存状況：上記群落は人為的影響がなく，保存状態は極めて良好である。ほかの生育地では，もともと幅の狭い帯状群落であるため，開発行為があれば立地ごと群落が失われる可能性がある。

所在地：1. 玄海町鐘崎；2. 大島村沖ノ島

その他，玄界島，志賀島，糸島半島沿岸部など。

(神野)

カテゴリー：IV，群落評価：A(福岡県)

ハマヒサカキ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：1. 大島のハマヒサカキ低木林 環境庁特定植物群落(D・H)，福岡県自然環境保全地域；2. 芥屋のハマヒサカキ低木林を含む海岸斜面の植物群落 環境庁特定植物群落(D)，玄海国定公園第1種特別地域

群落の特徴：ほぼハマヒサカキだけが上層優占種である海岸照葉低木林。海岸山地の斜面下部や岩角地に生じる。群落高は約0.5～3m，単層または2層の群落である。類似群落の別記ハマビワ群落，トベラ群落よりも強風域に生じ，著しい風衝形を呈することが多い。表土も両群落より薄く，乾燥気味である。大島の群落は北岸の神崎鼻灯台直下にあり，県内最大である。芥屋の群落は芥屋の大門付近に小面積で見られる。このほか，県北の海岸山地や島嶼の斜面下部，岩角地に小規模な群落が分布する。

群落構成：ハマヒサカキが優占し，トベラ，マサキ，シャリンバイ，ヤブニッケイ，ネズミモチなどの照葉樹，マルバグミ，ノブドウ，サルトリイバラ，ハマサオトメカズラ，ハマナタマメ，キヅタ，テイカカズラ，フウトウカズラなどのつる植物，ヤブラン，

ノシラン，ムサシアブミ，ハチジョウススキ，ツワブキ，ニオウヤブマオ，ハマボウフウ，ハマボッス，オニヤブソテツなどの草本を伴う。ただし，出現種数は階層数，隣接群落の種類，露岩の多少などに応じて変化する。種組成上，トベラ群落とともにトベラマサキ群集とされる。

保存状況：上記群落はいずれも人為的影響がほとんどなく，保存状態は良好である。ほかの生育地では小規模な群落であるため，開発行為があれば消滅する可能性がある。

所在地：1. 大島村；2. 志摩町芥屋

その他，沿岸，島嶼部の急斜面に点在する海岸風衝低木林の下部に点在している。

(神野)

カテゴリー：IV，群落評価：B(福岡県)

ハチジョウススキ群落 ◆

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：1. 小呂島のハチジョウススキ群落 環境庁特定植物群落(D・H)；2. 沖ノ島のハチジョウススキ群落(D・H) 福岡県自然環境保全地域，国天然記念物(沖の島原始林)

群落の特徴：小呂島は博多港の北西約45kmの玄界灘に位置する孤島で，周囲は断崖となっているが，北端の岬の西斜面は比較的なだらかで，ハチジョウススキ草原が発達している。その面積は3haを越えており，県内では最大の群落である。この群落は，冬季の北西季節風の影響を受けた風衝草原と考えられるが，1960年代までこの地域に牧草地があったことから，一部は二次草原として成立している可能性もある。

またハチジョウススキ群落は，沖ノ島の海岸斜面にも見られる。この群落は，ハマビワ低木林の下方に発達しており，小呂島の群落と同様に，風波の影響を受けた風衝草原である。

群落構成：小呂島のハチジョウススキ群落は，群落高0.5～1m程度で，ほかにニオウヤブマオ，ツワブ

キが比較的高頻度で出現し，ボタンボウフウ，シマカンギク，ヒゲスゲ，ホソバワダン，ハマウド，ハマナデシコなどを混じえ，ハマサオトメカズラ，クルマバアカネ，ハマナタマメなどのつる植物も出現する。県内では小呂島のみ分布するイヨカズラも点在する。沖ノ島の群落もほぼ同様の種組成であるが，ハマナデシコやハマナタマメを欠く。

保存状況：小呂島，沖ノ島とも孤島のため，外部から訪れる人は少なく，群落の保存状況は良好である。

所在地：1. 福岡市西区小呂島；2. 大島村沖ノ島

なお，ハチジョウススキは玄界灘の島嶼や沿岸域に分布しており，上記群落のほかにも小規模な群落が見られる。

(須田)

カテゴリー：I，群落評価：A(福岡県)

香春岳の自然林 ◇

構成群落：☆イワシデ群落(A・B・D・G・H)，アラカシ群落(E)，ウラジログシ群落(E)，ススキーネザサ群落(E)
RDB群落委員会カテゴリー：なし

指定：☆環境庁特定植物群落，筑豊県立自然公園普通地域(二ノ岳，三ノ岳)

群落立地：香春岳は福智山地の最南端に位置しており，全山が石灰岩からなる。南から北へ，一ノ岳，二ノ岳(標高468m)，三ノ岳(511m)の3つの峰に分かれている。一ノ岳は1934年より採石が続いており，かつて標高492mあった山は，現在230mまで削られている。西側斜面のほとんどの部分は岩場で，傾斜約60度の大規模な崖が続くのに対し，東側斜面は急傾斜ではあるが西側ほどではなく土壤もある。

群落の特徴：季節風と日照の関係で，東側斜面には照葉樹であるアラカシ群落，西側斜面には夏緑樹であるイワシデ群落が形成されていて全く対照的である。二ノ岳の山上の北側半分と三ノ岳の山頂部にはススキーネザサ草原，二ノ岳の山頂部にはウラジログシ二次林がある。一ノ岳ではこれまでの採石により，イワシデ群落やスタジイ群落が消滅した。

イワシデ群落は二ノ岳と三ノ岳に県内最大規模の典型的な群落がある。特に二ノ岳西側の大岩壁の標

高200mから山頂までの高さ約270m，幅約500mの範囲が優れている。群落高は6m程度で，イブキシモチケ，オオコマユミ，イワツクバネウツギ，ヤマブキ，ツゲ，シロバナハンショウヅル，チョウジガマズミ，コバノチョウセンエノキ，バイカウツギ，バイカイカリソウなどの好石灰植物を伴っている。

アラカシはイワシデほどではないが，石灰岩と結び付きの強い樹木といわれる。やや傾斜が緩く土壤の発達した東側斜面に群落をなしている。過去に伐採され再生した二次林である。タブノキ，ヤブニッケイ，シロダモ，ヤブツバキなどを混生し，イワシデ，クスドイゲ，カヤなどの好石灰植物も見られる。

ススキーネザサ群落は二ノ岳と三ノ岳にあるが，山焼きや草刈りをしないために，近年ネザサが繁茂してほかの植物を圧倒している。また樹木の侵入で急速に遷移が進行している。

所在地：香春町香春，採銅所 (熊谷)

カテゴリー：II，群落評価：B(福岡県)

釈迦・御前岳の自然林 ◇

構成群落：☆ブナ群落(A)，モミ群落(A)，ツクシシヤクナゲ個体群(G)，サワグルミ群落(E)
RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：☆環境庁特定植物群落，矢部川県立自然公園第2種特別地域・普通地域

群落立地：当該地域は，矢部村と大分県前津江村および中津江村に接する県境に位置し，ブナ林は釈迦岳(標高1230m)と隣接する御前岳(1209m)の稜線部および斜面上部に存在している。地形は稜線の両側とも急な斜面となっている。地質はほぼ両輝石安山岩よりなり，下部に行くにしたがって集塊岩および凝灰岩，プロピライト，変成岩類に変化する。

群落の特徴：ブナ林は1970年頃までは南側につながる熊本県境の三国山，国見山の尾根筋にも存在していたが，拡大造林のため現在では釈迦・御前岳の尾根筋にのみ，かろうじて残存している。ブナ林域下部には御前岳南斜面にアカガシ群落，釈迦岳南側の谷にシオジ群落が存在していたが，現在はスギ，ヒノキ，ケヤキの植林や二次林となっている。

本地域のブナ群落は，急傾斜地で保水力の低い土地条件下に，かろうじて形成されている自然林である。スズタケが密生しているため種数は少ないが，高木層にミズナラ，コシアブラ，コハウチワカエデ，

アカガシなど，亜高木層にマルバアオダモ，ベニドウドン，コミネカエデ，シラキなど，低木層にはスズタケの中にシロモジ，タンナサワフタギ，ウスゲクロモジを伴う。また，土壤が浅く岩場の多い部分にはツクシシヤクナゲ個体群も見られる。

モミ群落は，御前岳南斜面の標高1000m付近の岩場に見られる。群落高20～25mでツガを混じえ，ゴヨウマツの高木も生育する。亜高木層にはヤマグルマ，ソヨゴ，マンサクなどが見られ，低木層以下はハイノキが優占し，コミネカエデ，コハウチワカエデ，コガクウツギなどのブナ林構成種と混生している。

サワグルミ群落は，釈迦岳南斜面の谷部分の標高900～1000mに小規模な林分が見られる。クマノミズキ，シロモジ，ツリバナ，アブラチャン，ウスゲクロモジ，ヤブデマリなどを伴う。

所在地：矢部村北矢部 (宝理)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

水田-水路-ため池-畦畔の植生 ◇

構成群落：水田雑草群落，水生植物群落，湿生植物群落，ススキ-ネザサ群落 選定基準(E・G)

RDB群落委員会カテゴリー：なし

指定：なし

群落立地：平野部および中山間地域の水田と，水田耕作に必要で，かつ昔ながらの伝統的な形態を残したため池，水路などの諸施設。

群落の特徴：ほ場整備や除草剤などの影響を受けていない水田とその周囲には，昔ながらの水田雑草群落，水路やため池の水生植物群落，畦畔やため池堤防の草地群落などが，まとまりをもって見られることがある。このような水田耕作の影響を受けた「水田-水路-ため池-畦畔の植生」は，雑木林と同様に，人為的管理により維持されてきた植生である。

水田の群落：ここでいう水田の群落とは，一言でいえば，昔ながらの水田雑草群落である。この群落は，デンジソウ，シナミズナラ，ミズオオバコ，ヤナギスプタなど，現在，急激に減少しつつある水生植物を中心に構成されており，このような種構成からなる群落は，県内ではもはやほとんど見ることができない。現在の水田雑草群落の多くは，コナギ，ウリカワなどで構成される貧弱な群落である。しかし，放棄水田や水田に作られた養鯉池などでは，埋土種子などが残存しているため，これらの種子などが発芽し新たな群落を形成している場合もある。

水路の群落：水路の群落が成立する条件として，水路がコンクリートではなく土水路として維持管理されていることが重要である。低地から丘陵地にかけての土水路には，クロモ，エビモ，ヤナギモなど複数の水生植物により構成される群落が見られることがある。この群落自体の貴重性はあまり高くはないが，生物の生息空間として重要である。低地の土水路の大型のものとして位置づけられる二ツ川(三橋町)に成立するセキシウモ群落は，セキシウモのほか，エビモ，ヤナギモ，クロモ，ホザキノフサモ，ササバモ，オグラコウホネなどが出現し，県内では貴重な水生植物群落である。

一方，山間部の土水路には，溪流に生育するフジウロコゴケ，ホソバミズゼニゴケなどの蘚苔類やセキシウモなどが群生する場合があり，低地の水路と同様に生物の生息空間として重要である。

ため池の群落：水田と深いかかわりを持つため池は，天然の池沼と異なり，水抜きなどの人為的管理が行われており，富栄養化や陸地化が抑えられている。そのため，池中にはガガブタ，ジュンサイ，ヒルムシロ，ホソバミズヒキモなどにより構成される

水生植物群落が見られる所がある。この植生を総称した「ため池水生植物群落」(別記)も，現在減少しつつある。極めて貴重なため池群落であるガシャモク群落も県内に存在している。ため池の岸边にはヨシ，マコモ，ヒメガマなどの抽水植物が帯状に分布している所が見られ，この中には沈水・浮葉植物も混生している場合もある。

ため池湿地の群落：ため池には，堰の対岸側の水流入部などに小規模な湿地が形成されることがある。特に丘陵地から山間部にかけてのため池に見られる場合があり，面積は小さいが残された湿地として貴重である。このような湿地は，カンガレイやイグサなどが高密度で出現する場合，オオミズゴケやキセルアザミが高密度で出現し，サワギキョウ，ノハナショウブなどが混じる場合など，いくつかの異なる群落に区分される。このようなため池湿地群落は，「湿生植物群落」(別記)の一部に含まれている。

畦畔やため池堤防の群落：ほ場整備が行われていない山間部の畦畔，水田と隣接する林との間の斜面，ため池堤防斜面などには，草刈りなどの人為的管理によって成立している草地がある。この草地は，ススキが優占する場合が多く，時にチガヤが優占する場合もある。前者の場合は，ススキ-ネザサ群落として位置づけられ，ススキ，ネザサのほか，キキョウ，スズサイコ，カワラナデシコ，オミナエシ，リンドウなど，最近減少しつつある種を混生しており，面積は小さいが残された二次草原として貴重である。また，ススキやチガヤが生育していない湿った畦畔には，ミゾカクシ，ムラサキサギゴケなどが優占していることが多いが，ウメバチソウやモウセンゴケなど，減少しつつある種が混じる場合もある。

最近では山間部まではほ場整備が進み，上述した群落は急激に減少している。しかし，部分的には残されている所があり，生物多様性を維持する観点から貴重な存在となっている。このような群落を含む水田生態系の保全のためには，それを維持してきた伝統的農業文化の継承も合わせた市民参加型保全活動などが考えられる。

所在地：小石原村，宝珠山村などの中山間地域には，上記の群落のいくつかが集まって見られる。

(須田)

カテゴリー：Ⅱ，群落評価：B(福岡県)

河頭山の照葉樹林 ◇

構成群落：☆タブノキ群落(E)，ヤブツバキ群落(E)，スダジイ群落(E)

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：☆環境庁特定植物群落，福岡県環境指標の森

群落立地：当該地域は，皿倉山の北西側山麓にある小丘陵(213m)である。地質は花崗岩からなり，露岩も多く，一部地域では採石も行われていた。土壌は腐植質の褐色森林土壌である。北九州市営河頭山公園として市民に開放され，終日林内を散歩する人も多く，林内には様々な散策ルートが設けられている。

群落の特徴：麓の貴船神社裏山に自然度の高いスダジイ林が残されているが，大部分は植栽されたクスノキやムクノキ，エノキの高木が混じるタブノキ林である。下刈りなど人為を加えた林分が多い。山頂周辺は伐採し，ヤブツバキの植栽も見られる。またタブノキ，ムクノキ，エノキの巨木に環状除皮を行い，立ち枯れを起こさせる処置をした樹木が多く見かけられ，今後も更に公園化が進むと思われる。

タブノキ群落は，高木層にタブノキ，ヤブニッケイのほかには落葉樹であるムクノキやエノキなどが多く，人為的な攪乱要素を持つ林である。山頂付近にはこれらの高木をあまり伴わないヤブツバキ林が見られ，樹高10m，直径25cmを越える樹も少なくない。植被率も90%以上であり，密生した林は壮観である。下刈りが行われているが，以前の植生の状況は残されている。

スダジイ群落は，本地域の一部に残された最も自然度の高い林である。樹高15～20m，胸高直径40～50cmの大木も多く，植被率は95%に達している。亜高木層にはシロダモ，ヤブニッケイ，モッコクなど，低木層にはヒサカキ，ネズミモチが多く，草本層にはオオカグマ，オオアリドオシなども見られる。

所在地：北九州市八幡西区鳴水 (神崎)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

立花山の自然林 ◇

構成群落：☆クスノキ群落(A・E・H)，エノキ群落(F・H)，スダジイ群落(E)，常緑・落葉混交二次林(E・G・H)

RDB群落委員会カテゴリー：1(クスノキ林)

指定：☆環境庁特定植物群落，玄海国定公園第1種特別地域，特別天然記念物(立花山クスノキ原始林)

群落立地：立花山塊は福岡平野東部に位置し，地質は三郡変成岩および花崗閃緑岩，第三紀層からなる。立花山(標高367m)を主峰とし，北西側に松尾山，白岳，東側に三日月山を従える。山体は周囲の丘陵からほぼ独立し，標高約100mを境に上方は急傾斜，下方は緩傾斜である。

群落の特徴：クスノキ群落は三日月山以北に分布する。クスノキが優勢な照葉高木林で，高木層にはヤブツバキ，タブノキ，カゴノキを混じえる。亜高木層はシロダモ，イヌビワなどからなり，低木層はアオキが優占し，草本層はイズセンリョウ，アリドオシ，ヤブコウジ，キツタ，テイカカズラなどからなる。種組成上，従来知られているどの照葉樹群集にも同定されない。群落高15～30mで，林冠，林床ともよく発達する。クスノキの胸高直径は平均70cm，最大3mに達する。深土湿潤～適潤立地に広く分布する。立花山は藩政期は御留山でクスノキは保護育成され，列状に生立する林分があることから，植栽され成林したものと考えられている。なお，立花・松尾山間の鞍部にはクスノキを含むエノキ群落があ

る。

スダジイ群落は純林状態で林冠出現種は少ない。林冠はよく閉鎖し，群落高は約20m，胸高直径は20～36cmである。山麓の深土適潤地に散在する。

常緑・落葉混交二次林は，高木層優占種によりシイ・カシ萌芽林，コナラ群落，アカマツ群落に区分されるが，群落境界は不明瞭である。シイ・カシ萌芽林は主に三日月山西斜面に広がる。コナラ群落は三日月山以南の主稜に散在する。アカマツ群落はアカマツの枯損が目立ち，シイ・カシ萌芽林へ移行している。三日月山以南の山腹に分布する。いずれも生活に密着した里山林であったが，現在では放置され，遷移が徐々に進行している。

立花山は都市近郊にあり眺望もよく，古くより人々に親しまれている。玄海国定公園内にあり，特別天然記念物(クスノキ原始林)もあるので特段の改変はなく，今後も現状が維持されると考えられる。

所在地：福岡市東区下原，新宮町原上，立花口，久山町山田

(神野)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：A(福岡県)

英彦山の自然林 ◇

構成群落：☆ブナ群落(A・H)，☆ツクシシヤクナゲ個体群(G)，☆ミズナラ群落(A・G・H)，☆シオジ群落(A・G・H)，☆モミ群落(A)，☆ヒノキ群落(A・G・H)，☆スギ群落(F)

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：☆環境庁特定植物群落，耶馬日田英彦山国定公園特別保護地区・第1種・第2種・第3種特別地域，国天然記念物(鷹巣山：ビュート地形)

群落立地：当該地域は福岡・大分両県を境する英彦山地の稜線部および斜面上部である。英彦山の中岳を中心に，北側に北岳，鷹ノ巣山，南側に南岳(最高峰：標高1200m)を経て岳減鬼山，釈迦岳と続く稜線，それらに囲まれた障子ヶ岳，上仏来山などを含む広大な地域である。地質は標高約1000mまでは凝灰角礫岩，それ以上は安山岩で，整合に重なっている。そのため標高1000m付近を崖が取り巻いたビュート地形であり，代表的な姿を鷹ノ巣山一ノ岳に見ることができる。

英彦山は我が国三大修験道の山の一つで，平安時代から保護されてきたので，自然状態は極めて良好で，県内ではここでのみ生育する群落や種が多い。

群落の特徴：北岳・中岳・南岳の主稜線および岳減鬼山の頂上，鷹ノ巣山の稜線や障子ヶ岳の一部に

はブナ群落があり，林床にはクマイザサまたはスズタケ，一部はツクシシヤクナゲが生えている。コハウチワカエデ，ベニドウダン，タンナサワフタギ，シロモジ，ツリバナなどを伴っている。鷹ノ巣山には，ブナ群落の代償植生としてのミズナラ群落があり，林床はスズタケからなる。

標高1000m以下の谷間には上部から崩落した安山岩が堆積している。そのような所にはシオジ群落が成立している。また，鬼杉付近の谷間一帯にはツガの混生したモミ群落があり，望雲台や障子ヶ岳の岩上にはヒノキ群落がある。古いスギ植林は千本杉や高住神社付近に見られる。英彦山青年の家付近にはススキーネザサ群落がある。ブナ群落，ヒノキ群落，千本杉などは1991年の台風19号で大打撃を受けた。

所在地：添田町英彦山 (熊谷)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：A(福岡県)

犬ヶ岳の自然林 ◇

構成群落：☆ブナ群落(A・H)，☆ミズナラ群落(E)，☆シオジ群落(A)，☆アカシデーイヌシデ群落(E)，☆クロクモソウ個体群(B)，☆ツクシシヤクナゲ個体群(G)

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：☆環境庁特定植物群落，耶馬日田英彦山国定公園第2種・第3種特別地域，国天然記念物(犬ヶ岳ツクシシヤクナゲ自生地)

群落立地：当該地域は主峰カメの尾(標高1131m)を中心に，笈吊岩から一ノ岳(1124m)に至る主稜線北側斜面一帯である。地質は安山岩質集塊岩よりなる。冬季は北西の季節風のため積雪量は比較的多い。

群落の特徴：登山口の標高400m付近はホソバタブなど照葉樹林帯上部林であるが，500m付近よりシデ類などを主とする落葉樹二次林，900m付近より夏緑樹林帯となる。ブナは標高700mより見られるが，群落としては900m以上にあり，コハウチワカエデ，タンナサワフタギ，アオハダなどを伴う。

ミズナラ群落は，一ノ岳と大竿峠の間の尾根筋とカメの尾の北斜面の一部に見られる。樹高は8～10mと低く，胸高直径も20～10cm程度であり，伐採後の二次林である。シオジ群落は，稜線北側の谷筋に沿って，土壌が湿潤で岩屑が崩落するような箇所に

分布しているが，スギ植林のため伐採が進み，数地点に残るのみである。アカシデーイヌシデ群落は，古くより薪炭林として利用されてきた二次林である。伐採後の経過年数や地形的な違いで多様な林相となっている。最も自然度の高い林は恐淵付近で見られる。クロクモソウ個体群は，標高700～900mの日陰で，溪流沿いの飛沫がかかるような岩の間隙などに見られ，生育状況は良好である。

ツクシシヤクナゲ群落は笈吊岩からカメの尾までの稜線と二ノ岳，国見峠の一部に大群落があり，見事である。花の時期には多くの登山者が訪れるが，心ない者によりエビネ類，ヤマシヤクヤク，ゲンカイツツジの盗掘も激しく，絶滅に瀕しており，早急な対策が望まれる。

所在地：豊前市鳥井畑ほか (神崎)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

脊振山の自然林 ◇

構成群落：☆ブナ群落(E)，☆アカガシ群落(E・H)，☆アカシデーイヌシデ群落(A)，リョウブ低木林，ミヤコザサ群落(E)，ツクシシヤクナゲ個体群(G)

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：☆環境庁特定植物群落，脊振雷山県立自然公園第1種・第2種・第3種特別地域

群落立地：当該地域は，福岡・佐賀両県の県境をなす。東端の九千部山(標高847m)から始まり，主峰脊振山(1055m)から北西へ延びる主尾根は，標高900～800mを維持しながら金山(967m)へと続き，三瀬峠(583m)へ至り，更に井原山(983m)，雷山(955m)を経て羽金山(900m)，浮岳(805m)から西端の十坊山(535m)へ至る。これらの山地の地質は中生代末の花崗岩類が基盤を作っているが，脊振山頂付近は三郡変成岩類となっている。地形は南西側は緩斜面，北東側は急斜面であり，福岡県側は一般に深く切り込まれた谷が発達している。

群落の特徴：脊振山地の主稜線から，標高800mを下限として，断続的にブナ群落が残存している。これらのブナ林は二次植生から回復した自然林と思われるが，一部に胸高直径50cm前後の個体を含む立派な林分もある。尾根を下がると次第にアカガシの混

在が認められる。アカガシ林は標高900mの尾根筋から500m付近まで認められ，下限付近では大部分が伐採により攪乱されており，シイ・カシ萌芽林的な林相となっている。尾根筋ではブナ群落と交錯しながら小さな林分が点在している。鬼ヶ鼻付近では純群落状の良好な林分が認められる。

ブナ群落の周辺は，かなり広範囲にアカシデーイヌシデ群落が開発している。このほか，リョウブ低木林およびミヤコザサ草原などがある。ミヤコザサ草原は20～30年前には残存ブナ林の周辺部で広大な面積を占めていたが，現在はかなりの部分でブナ，リョウブ，コバノミツバツツジ，ネジキなどを主とした幼木林化しており，遷移が進行しつつある。

尾根筋に近い急斜面の岩場にはツクシシヤクナゲ個体群も見られる。

所在地：福岡市早良区板屋，椎原ほか (冷川)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

三郡・宝満山の自然林 ◇

構成群落：☆ブナ群落(A)，☆モミ群落(A)，☆アカガシ群落(E)，ツクシシヤクナゲ個体群(G)，ケヤキ群落(H)

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：☆環境庁特定植物群落，太宰府県立自然公園第1種・第2種・第3種特別地域

群落立地：当該地域は，県中央部をほぼ南北に走る三郡山地の南部に位置する。主峰三郡山(標高936m)から仏頂山(869m)にかけての福岡平野側斜面上部と，宝満山(829m)一帯の中腹以上では，自然植生が多く見られる。三郡山地の地質は，若杉山東南部を境に，南側は白亜紀末の花崗岩類からなる。本山域は，主稜は緩やかな山並みとなっているが山腹は一般に急傾斜である。特に南端の宝満山では，中腹以上で各所に絶壁状の斜面が見られる。

群落の特徴：ブナ群落は，主に三郡山から仏頂山にかけての縦走路北西側谷斜面上部に点在するほか，仏頂山～宝満山頂付近ではモミ群落やアカガシ群落と交錯しながら生育している。下限は宝満山羅漢道の標高680m付近で，絶壁下の堆積土に生育する。本山域のブナ林は，本県の群落としては下限に位置し，照葉樹林帯上部のアカガシ群落と交錯することから，群落構成種は照葉樹林帯構成種と混在している

場合が多い。モミ群落は，仏頂山北西尾根を中心に，宝満山にかけての尾根～斜面上部に見られる。本州太平洋側のモミ群落は，夏緑樹林帯と照葉樹林帯の中間(中間温帯)に位置する群落であるが，ここでは両樹林帯要素が混在して出現する。

アカガシ群落は標高500m付近から上部に見られる。下方の林分は萌芽林が多いが，宝満山頂一帯は古くより神域として保護されてきたため，自然度の高い群落が多い。アカシデーイヌシデ群落は，1970年前後まで薪炭林として利用されてきた雑木林がその後放置され，回復途上にある二次植生である。

ツクシシヤクナゲ個体群は，頭巾山西方の急斜面や仏頂山西方の谷上部のアカガシ林内の巨岩上などに点在しているが，いずれも個体数は減少している。難所ヶ滝付近にはケヤキの巨木が点在する。

所在地：太宰府市北谷，筑紫野市本道寺，宇美町宇美，筑穂町馬敷ほか (冷川)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：B(福岡県)

福智山の自然林 ◇

構成群落：☆アカガシ群落(E・H)，☆アカシデーイヌシデ群落(E・H)，ススキーネザサ群落，
☆ケヤキ群落(E・H)，アカマツ群落(E・H)，☆ゲンカイツツジ個体群(B・D・H)

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：☆環境庁特定植物群落，北九州国定公園第1種・第2種・第3種特別地域

群落立地：福智山(標高900m)は県の北東部にあって北九州国定公園に指定されている。北方の帆柱山，皿倉山から尺岳を経て牛斬山，香春岳に至る福智山地の主峰である。地質はおおむね変成岩類で，南麓の上野峡一帯は花崗岩である。西側山麓は南北に走る福智山断層のため急傾斜で谷は深く，標高250m付近には滝が並ぶが水量は少ない。東斜面は緩傾斜で自然林が広く存在し，谷川の水量は豊富である。
群落の特徴：山頂部の南西斜面にはクマイザサ群落があり，山頂の北側上部斜面から牛斬山へと続く長い稜線部は防火帯で，ススキーネザサ群落となっている。アカシデーイヌシデ群落は，主に山頂部の北西および北側の標高650m以上の範囲に広く分布している。シデ類のほかにリュウブ，エゴノキ，ヤマザクラ，ミズキ，カナクギノキなどを伴う。部分的にはシオジ群落やコナラ群落を区分することができ

る。

アカガシ群落は，福智山の東側斜面の上部，標高500～700mあたりに帯状に分布している。シロダモ，ヤブニッケイ，スダジイなどの照葉樹，アカシデ，コナラ，ヤマボウシなどの夏緑樹を伴っている。

ます淵貯水池上部の山ノ神川流域には優れたケヤキ群落がある。標高385～400mの間の1haの範囲だけでも胸高直径60～120cmのものが34本もあり，本県最大の群落である。また，反対側斜面の上野峡一帯の花崗岩地にはアカマツ群落がある。老齢木はほとんど枯れているが，幼木は多数あり，県内のアカマツ林が消滅していく中において貴重な存在である。ゲンカイツツジ個体群は，アカマツ群落が発達する花崗岩の岩場の一部に生育している。

所在地：北九州市小倉南区道原，頂吉，直方市畑，赤池町上野，方城町弁城，伊方 (熊谷)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：A(福岡県)

平尾台の石灰岩台地植物群落 ◇

構成群落：☆イワシデ群落(B・D・H)，☆ヤブニッケイ群落(B・D)，☆ススキーネザサ群落(E・H)

RDB群落委員会カテゴリー：3

指定：☆環境庁特定植物群落，北九州国定公園特別保護地区・第1種・第2種・第3種特別地域，
筑豊県立自然公園普通地域，国天然記念物(平尾台：カルスト台地)

群落立地：平尾台は山口県秋吉台と並ぶ我が国屈指のカルスト台地で，北方の貫山(標高712m)から南方の塔ヶ峰(396m)，南西端の竜ヶ鼻(681m)に至る，長軸約7km，幅約2kmの広大な地域である。台上の標高は平尾集落一帯が約360mで最も低く，南北両端が高くなっているが，全体としては南西方向に傾いている。周囲は40度前後の傾斜で落ちており，卓状台地となっている。地質は大部分が石灰岩で，火成岩と接触し結晶質石灰岩となっている。北部の貫山一帯は花崗岩である。台上の石灰岩は長い間の侵食作用により，地表ではドリーネやウパーレなど，地下には鍾乳洞が発達している。また，平尾集落一帯には阿蘇火山の火砕流起因の八女粘土層がある。

群落の特徴：ススキーネザサ群落は，広大な平尾台の大半を占めている。早春の山焼きによって保持されており，希少植物の宝庫である。草原にはネザサ

優占の部分，ススキ優占の部分，トダシバやチガヤ優占部分などがあり，それぞれ種組成が異なる。

イワシデ群落は，石灰岩地を最も代表する群落である。イワシデの多くは樹高4m以下の亜高木または低木で，オオコマユミ，コバノチョウセンエノキ，チョウジガマズミ，イワツクバネウツギ，バイカウツギ，キビノクロウメモドキ，イブキシモチケなどの好石灰植物のほか，所によってはヤブニッケイ，カゴノキ，シロダモなどの照葉樹を混じえる。

ヤブニッケイ群落は，石灰岩が防火壁の役をするドリーネの壁面などに形成されている。平尾台は標高からすると照葉樹林帯に属するが，その最も代表的樹種であるスダジイは嫌石灰植物であるため，八女粘土層が覆う平尾ポリエを除いては見られない。

所在地：北九州市小倉南区新道寺，苅田町谷，行橋市矢山ほか (熊谷)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：A(福岡県)

竜ヶ鼻の自然林 ◇

構成群落：☆イワシデ群落(B・D・H)，☆ケヤキ群落(A・G・H)，カヤ群落(B・D・H)，アカガシ群落(B・D・H)

RDB群落委員会カテゴリー：2

指定：☆環境庁特定植物群落，筑豊県立自然公園普通地域

群落立地：竜ヶ鼻は平尾台の南西端に位置し，石灰岩からなる大規模な崖地である。崖の高さは470mに及ぶ。斜面の傾斜は標高約400mまでは約40度，それ以上は60度を越え，上部は絶壁状態であり，人跡未踏の部分が多くある。竜ヶ鼻は南方の香春町側からの谷が狭まった所に，そびえており，そのため南風は収れんし，強風となって屏風状の岩壁を吹き昇る。崖地というばかりでなく，気象条件の非常に厳しい所であり，希少植物も数多く見られる。

群落の特徴：標高400m付近にある大規模な崖の上部は石灰岩地特有のイワシデを中心とした自然林である。イワシデ群落は，石灰岩が突き出したような部分に典型的な群落がある。樹高2～3mのイワシデとともに，オオコマユミ，キビノクロウメモドキ，チョウジガマズミなどがあり，小低木のイブキシモツケ，イワツクバネウツギ，バイカウツギ，シロバナハンショウヅル，オニシバリなどのイワシデ林特

有の植物を伴っている。また，西方にはイワシデとイスノキが混ざった林分，東方にはヤブニッケイ，アカガシ，ウラジロガシなどと混ざった林分がある。

ケヤキ群落は，標高400m付近の崖下の比較的緩傾斜で岩石の堆積する立地や，谷間の小岩海に形成されている。ケヤキのほかにも，ムクノキ，エノキ，イロハモミジ，カゴノキなどの高木が混生する。ケヤキは20×20mの方形枠内に5本程度あって，胸高直径は60cmに達する。カヤ群落はケヤキ群落と同様に崖の下方に形成されている。ケヤキ群落のできる地形と多少異なり，一方の側か両側に小さな谷ができていて，多少盛り上がった所である。カヤは大きいもので胸高直径が60cm，20×20mの方形枠内に5本程度ある。

アカガシ群落は，香春町と勝山町とを境する竜ヶ鼻東側の標高640m付近に優れた林分がある。

所在地：香春町採銅所

(熊谷)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：A(福岡県)

城山の自然林 ◇

構成群落：☆シイ群落(A・E)，☆カゴノキ群落(A・E)，☆ウラジロガシ群落(A・E)，☆ムクロジ群落(B)

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：☆環境庁特定植物群落

群落立地：城山(標高369m)は，宗像市と岡垣町境をほぼ南北に走る孔大寺山地の南端にある。地形・地質は標高約150mを境に，上方は急傾斜で主に中生代白亜紀の関門層群から，下方は緩傾斜で主に花崗岩類からなる。

群落の特徴：城山の中腹(標高約200m)以上は照葉樹自然林で広く覆われる。林木には萌芽樹形が少ない。これは藩政期に御留山とされてから現国有林に至るまで，森林への人為的干渉が落葉落枝や枯損木採取など，軽微な利用と管理であったためと思われる。一方，高木層に大径のコナラ，ヤマザクラ，イヌシデ，ハゼノキ，ヤマフジ，クズなどの夏緑樹やつる植物が点在し，大径のアカマツの倒木があることから，二次林も部分的にあったと想像される。

シイ群落はコジイ，スダジイを優占種とする照葉高木林である。主に宗像市側(南面)の深土適潤斜面に発達する。群落高は尾根部で15m前後，斜面で20

～25mになる。林木の胸高直径はおおむね30cm以上で，70～80cmのものもある。林冠はよく閉鎖し，林床の植被率は凹形斜面で高く，凸形斜面で低い。

カゴノキ群落はカゴノキやタブノキがシイ・カシ類よりも優勢な高木林で，しばしばクスノキの大径木が見られる。林相や種組成はシイ群落に似る。主に宗像市側の中腹に生じる。ウラジロガシ群落はウラジロガシ，イスノキが優占し，林相や種組成はシイ群落に似るが，アカガシ，シキミ，バリバリノキ，ツルシキミを伴う。主に岡垣町側斜面に見られる。

ムクロジ群落は，ムクロジを優占種とする高木林で，宗像市側(南面)の3本のかれ谷にある小規模な線状群落で，新緑・黄葉期には周囲の樹林から明瞭に区別される。林冠はよく発達し，群落高は20～25m，ムクロジの胸高直径は20～90cmである。

所在地：宗像市三郎丸，陵厳寺，石丸，岡垣町上畑

(神野)

カテゴリー：Ⅲ，群落評価：C(福岡県)

油山の自然林 ◇

構成群落：☆スダジイ群落(E)，☆アカマツ群落(E・H)，常緑・落葉混交二次林(E・G・H)，
ヤブツバキ群落(E)

RDB群落委員会カテゴリー：なし

指定：☆環境庁特定植物群落，福岡市油山自然観察の森(環境庁・福岡市)

群落立地：油山(標高597m)は福岡市南部に位置する。主稜は南北に走り，小笠木峠で脊振山地とつながる。地質はほとんどが中生代白亜期末の早良花崗岩からなり，表層は真砂土で覆われる。北側山麓部では古第三紀層も見られる。

群落の特徴：山城のほとんどはスギ・ヒノキ，モウソウチクなどの植林地となっているが，一部にはスダジイ群落やアカマツ群落，常緑・落葉混交二次林が見られる。スダジイ群落は油山観音裏一帯に約1haの良好な林分が見られる。高木層は全体的に萌芽した樹木が多く，かつては薪炭林として利用されていた林分と考えられるが，伐採後の時間の経過とともに，良好な群落として回復している。このほか，油山青年の家付近や山頂，山麓の花畑園芸公園などにスダジイ林が残存している。

アカマツ群落は市民の森の上部，標高300～400mにあり，樹高25m，胸高直径40～60cmの林分が残存している。典型的なアカマツ林の姿を止めているが，近年マツクイムシや台風の被害を受け，かつての良好な姿とは言い難い。福岡市森と緑のまちづくり協会により維持管理が行われており，現状は小康を得ている。アカマツ林はかつては山城一帯に広く見られたが，山麓の開発や虫害によりほとんど消滅した。

常緑・落葉混交二次林は自然観察の森でまともに残存する。この林分は主に薪炭林として利用されてきた雑木林である。この林分は里山維持の目的に必要な手を加えながら維持されている。ヤブツバキ群落は，自然観察の森の谷筋にある。

所在地：福岡市南区桧原，城南区東油山，早良区西油山 (冷川)

カテゴリー：Ⅳ，群落評価：A(福岡県)

沖ノ島の自然林 ◇

構成群落：☆タブノキ群落(A・H)，☆ハマビワ群落(D・H)，☆オオタニワタリ個体群(B・C・H)，
☆ビロウ個体群(C)

RDB群落委員会カテゴリー：1

指定：☆環境庁特定植物群落，福岡県自然環境保全地域，国天然記念物(沖の島原始林)

群落立地：沖ノ島は玄界灘の中央に位置する孤島である。島は北東～南西方向に1.5km，最大幅900m，周囲4kmで紡錘形をしている。最高点は一ノ岳(標高244m)で，長軸方向に二ノ岳，三ノ岳，白岳と稜線が走る。遠望すると鳥帽子型に見える。島は中生代の粘板岩が基盤で上部に石英ひん岩が乗る。南東側は急傾斜で，一ノ岳直下では標高150m以上，北部では海面下から絶壁となる。南側下部は海岸線まで緩傾斜である。北西側は稜線から標高50mまで緩傾斜で下り，ここから海岸まで絶壁である。緩斜面では土壌が比較的深く森林が発達する。絶壁にはほとんど植生はなく，海崖上部斜面で低木林が発達する。島の周辺海域は対馬暖流が流れ温暖な気候を作っている。冬季の積雪や降霜はほとんど見られない。

群落の特徴：タブノキ群落は，絶壁状の急斜面を除く，標高70m以上のほぼ全域に認められるが，群落構成は立地により異なる。黄金谷付近など急斜面で

はタブノキ，シマモクセイ，バリバリノキなど，土壌が発達する平坦面ではこれにホルトノキ，ヤブニッケイ，カクレミノが加わる。その他，ノシラン，ムサシアブミ，イシカグマ，ヒゼンマユミ，オオムラサキシキブ，クワノハエノキ，オオタニワタリなどの暖地海岸性植物や亜熱帯性植物が出現する。

ハマビワ群落は標高70m以下のほぼ全域に見られ，海岸風衝低木林を形成している。南西側の標高40m以下の緩斜面には海岸風衝草原，岩角地や崖地の岩隙，岩棚には海岸岩角地群落が見られる。

オオタニワタリ個体群は黄金谷の巨岩上やその周辺，樹枝上に数十株が自生する。県内唯一の自生個体群である。ビロウ個体群は，島北端の割鼻上部標高70mの台地上に生育する。1972年の調査では，低木林中に成樹3株のほか，3株の幼樹が確認されている。今後注意深く見守る必要がある。

所在地：大島村沖ノ島 (冷川)

(文献)

- 尼川大録, 1984. 能古島の植生. 福岡県の自然, 6: 6-16.
- 尼川大録, 1985. 白島の植生. 福岡県の自然, 7: 2-13.
- 福岡県高等学校生物研究部会, 1975. 福岡県植物誌. 339 pp., 博洋社, 福岡.
- 福岡県の自然を守る会, 1976. 自然の現状と保護対策. 福岡県の自然, 2. 50 pp.
- 福岡県の自然を守る会, 1977. 自然の現状と保護対策. 福岡県の自然, 3. 41 pp.
- 福岡県, 1978. 第2回自然環境保全基礎調査, 特定植物群落調査報告書. 344 pp.
- 福岡県, 1979. 第2回自然環境保全基礎調査, 植生調査報告書. 486 pp.
- 福岡県, 1995. 福岡県環境指標の森第2次調査(昭和57~平成5年度)報告書. 108 pp., 福岡県保健環境部環境整備局環境保全課.
- 福岡市, 1983. 福岡市の植生. 184 pp., 福岡市都市計画局都市計画部土地対策課.
- 冷川昌彦, 1986. 筑前姫島の植生. 福岡県の自然, 8: 2-11.
- 冷川昌彦, 1989. 志賀島の植生. 福岡県の自然, 9: 5-14.
- 冷川昌彦・渡部 登・斉城 巧, 1996. 小石原行者杉の植生. 生物福岡, 35: 9-13.
- 冷川昌彦・渡部 登・佐々木公隆, 1999. 大野城市トラスの森調査報告書. 60 pp., 福岡自然環境研究会.
- 冷川昌彦, 2000. 大根地山のアカガシ林. 生物福岡, 36(印刷中).
- 宝理信也, 1993. ブナ林の植物社会学的研究(2)ー福岡県釈迦岳・御前岳のブナ林ー. 生物福岡, 32・33: 1-6.
- 猪上信義, 1980. 八女郡黒木町南部(山中・渡内)の植物. 福岡の植物, 6: 49-90.
- 猪上信義・野田 亮, 2000. 福岡県石割岳におけるヤマザクラ林の林分構造. 日本林学会九州支部研究論文集, 53: 93-94.
- 猪上信義・岡野昌明・斉城 巧, 1998. 福岡県の樹木. 252 pp., 葦書房, 福岡.
- 環境庁, 1988. 第3回自然環境保全基礎調査, 特定植物群落調査報告書, 追加・追跡調査(福岡県). 216 pp.
- 環境庁, 1988. 植物目録. 740 pp., 大蔵省印刷局, 東京.
- 環境庁, 1994. 第4回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書(全国版). 390 pp.
- 環境庁, 1997. 植物版レッドリスト. 46 pp.
- 神崎 巍, 1983. 平尾台の台上植生調査. 生物福岡, 23: 42-43.
- 熊谷信孝, 1983. イスノキを伴ったイワシデ群落. 生物福岡, 23: 1-5.
- 熊谷信孝, 1988. 香春岳(二の岳)のイワシデ林. 生物福岡, 28: 23-26.
- 熊谷信孝, 1990. 英彦山のブナ林の調査. 生物福岡, 30: 44-47.
- 久留米市自然環境調査委員会編, 1999. 久留米市自然環境調査報告書.
- 宮脇昭, 1981. 日本植生誌 九州. 484 pp. + 31 pls., 至文堂, 東京.
- 宮脇昭編, 1983. 改訂版日本植生便覧. 910 pp., 至文堂, 東京.
- 日本植物分類学会, 1993. レッドデータブック. 141 pp., 農村文化社, 東京.
- 小椋純一, 1996. 植生からよむ日本人の暮らし. 246 pp., 雄山閣, 東京.
- 鈴木兵二・伊藤秀三・豊原源治郎, 1986. 生態学研究法講座3, 植生調査法Ⅱー植物社会学的研究法ー. 188 pp., 共立出版, 東京.
- 須田隆一, 1998. 第5回自然環境基礎調査, 平成9年度特定植物群落調査報告書. 97 pp.
- 須田隆一, 1999. 第5回自然環境基礎調査, 平成10年度特定植物群落調査報告書. 122 pp.
- 須股博信, 1973. カルスト台地平尾台の植生とフロラ. 129 pp. + 25 pls., 北九州市教育委員会.
- 筑豊博物研究会, 1987. 古処山の自然. 289 pp., 第一法規, 東京.
- 筒井貞雄(編), 1992. 福岡県植物目録2. 385 pp., 福岡植物研究会, 福岡.
- 鷺谷いづみ・矢原徹一, 1996. 保全生態学入門. 270pp., 文一総合出版, 東京.
- 我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会, 1996. 植物群落レッドデータ・ブック. 1344 pp., (財)日本自然保護協会(NACS-J)・(財)世界自然保護基金日本委員会(WWF-J), 東京.
- 神野展光, 1983. 沖の島の植生. 福岡県の自然, 5: 3-25.